



小型電気温水器

ESN12ARN107E1

ESN12ALX111E1

ESN12ARX111E1

工事要領・取扱説明書

【Takara standard キャビネット用】

安全上のご注意	1
設置上のご注意	4
ご確認ください	5
同梱物の確認	5
純正別売部品	5
製品について	6
外形寸法	6
各部のなまえ	7
仕様	9

据付	10
据付場所の選定	10
標準設置例	11
キャビネットの補強	12
キャビネットの固定	13
排水部材の取り付け	15
温水器本体の据付け	17
配管接続	18
配管接続をする前に	18
湯水混合栓－温水器間	18
給水配管止水栓－温水器間	18
逃しホースの取り付け	19
電気工事	21
試運転	21
温水器に給水する	21
試運転後のお願い	23
設置完了チェックシート	23

ご確認ください	24
使用前の準備と確認	24
お湯を沸かす	24
設定温度の変更	25
出湯する	25
出水する	26

お手入れの方法	26
保守点検項目と実施の目安	26
長期間使用しないときは	26
短期間使用しないときは	27
凍結防止対策	28
逃し弁の動作確認	29
ストレーナーの清掃	30
外装のお手入れ	32

こんなときは	33
故障かな？と思ったら	33
過昇温防止装置のリセット	35
アフターサービス	36

設置・ご使用の前に

設置

使いかた

お手入れ

こんなときは

- ◆このたびは、本製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
- ◆本書を事前によくお読みになり、理解した上で正しくお使いください。
- ◆本書はお使いになる方がいつでもご覧になれるよう所定の場所に保管してください。

安全上のご注意

本書にはお客様への危害や財産への損害を未然に防ぎ、本製品を安全にお使いいただくために、お守りいただく事項を記載しています。

ご使用の前に必ず本書をお読みになり、内容をよく理解された上で正しくお使いください。

※本書に記載されている事項を守らずに発生した事故について、弊社は一切責任を負いません。

警告表示の意味



警告

この表示の欄は、「死亡、または重傷を負う可能性が想定される」内容です。



注意

この表示の欄は、「傷害を負う可能性、または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。



⊘の記号は、してはいけない行為(禁止行為)を示しています。

⊘の中や近くに、具体的な禁止内容が描かれています。

(左図の場合は『分解禁止』という意味です。)



●の記号は、しなければならない行為(強制行為)を示しています。

●の中に、具体的な指示内容が描かれています。

(左図の場合は『アース工事を確実に行うこと』という指示です。)

重要事項：必ずお守りください

警告



電気工事は「電気設備に関する技術基準」および「内線規程」に従って、電気工事士が行い、必ず温水器のアース工事は、D種接地工事を行う。
またアース線は、ガス管・水道管・避雷針・電話などへの接続や共用アースを行わない。
故障や漏電のときに感電の原因になります。



水道直結の配管工事は、当該水道局(水道事業管理者)の認定水道工事業者が指定された配管材料を使用して施工する。

事故、故障の原因になります。

分電盤等に温水器専用の漏電しゃ断器を設ける。

漏電したときに、火災、感電の原因になります。

温水器の電源は定格 15A 以上の AC100V 専用コンセント(接地極付き)を単独で使う。

発熱して、火災の原因になります。

専用の電源ブレーカーを設ける。

他機器と併用し、ブレーカー容量を超えたときに、発熱して火災の原因になります。

設置は必ず当社指定部品を使用し、この説明書に従って確実に行う。

火災、感電、漏水の原因になります。

温水器満水時質量に十分耐えられる場所に据え付ける。

温水器が転倒し、けがの原因になります。

電源プラグは根元まで確実に差し込む。

感電、ショート、発火の原因になります。

警告

異常・故障時には、直ちに使用を中止する。

発煙、発火、感電、やけどの原因になります。

電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに必ず先端の電源プラグを持って引き抜く。

感電、ショート、発火の原因となります。

お手入れのときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。

感電の原因となります。



1か月に1回程度、電源プラグの刃などについてホコリを取り除く。

火災の原因となります。

屋外や表面に結露が生じるような湿気の多い場所、水がかかる場所、特に浴室やシャワールームに取り付けられていないか確認する。

感電、誤動作の原因となります。

給湯時は、必ず水側から出し、湯温を確かめてから使用する。

やけどの原因となります。

排水は、必ずお湯を使い切ってから行う。

やけどの原因となります。



絶対に改造はしない。専門の技術者以外、分解、修理しない。

火災、感電、やけど、故障やケガの原因となります。

水、油、洗剤などがかかる位置に温水器用のコンセントを設けない。

火災、感電の原因になります。

AC100V以外の電源と接続しない。

火災、感電の原因になります。

温水器をガス類や引火物の近くに据え付けない。また、ガス類や引火物をおかない。

発火の原因になります。

湿気の多い場所には据え付けない。

感電、火災、故障の原因になります。

温水器は屋外や水のかかる場所には据え付けない。また、水をかけない。

感電、故障の原因になります。



電源コードや電源プラグを傷付けたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、束ねたり、重いものを乗せたり、挟み込んだり、加熱したりしない。

火災、感電の原因になります。

電源コードや電源プラグが傷んだり、コンセントの差し込みがゆるいときは使用しない。

火災、感電の原因になります。

電源プラグは、濡れた手で抜き差ししない。

感電の原因になります。

コンセントや配線器具の定格を超える使いかたをしない。

火災の原因になります。

タンク内の湯温が高い状態で絶対に排水しない。

配管が破損して、やけどしたり漏水するおそれがあります。



逃し弁点検時は、逃し弁本体や配管、逃しホースに手を触れない。

やけどのおそれがあります。

給湯中とその直後は高温になっていますので、配管部分、水栓金具に直接触れない。

やけどのおそれがあります。

雷が発生しているときは、電源コードに触れない。

感電の原因になります。

⚠ 注意

通電はタンクを満水にしてから行う。

過熱し、故障の原因になります。

凍結予防対策を行う。

配管や機器の破損、やけど、漏水の原因になります。

設置完了後、必ず通水し、温水器本体や各配管より漏水がないことを確認する。

漏水が起きた場合、機器の故障や大きな被害につながります。

必ず水道法の飲料水水質基準に適合した水道水を使用する。

故障、漏水の原因になります。

給水配管を接続する前に、配管内のゴミが排出されなくなるまで給水配管止水栓を開けて水を捨てる。

健康を害するおそれがあります。

膨張水は必ず排水処理する。

漏水が起き、機器の故障や大きな被害につながります。

温水器を必ず付属の固定金具及び、ねじを使用して固定する。

温水器が転倒し、けがの原因になります。

排水部材および排水配管に閉塞や異常がないことを確認する。

故障や漏水の原因となります。

給湯、給水接続配管はステンレスもしくは銅製の材質を使用する。

漏水の原因となります。



配管に使用するパッキンはノンアスベストパッキンを使用する。

漏水の原因となります。

飲用する場合は、やかんなどで沸かしてから飲む。

健康を害するおそれがあります。

日常的に漏水が無いか点検する。

漏水が起きた場合、階下などに被害を及ぼすおそれがあり、大きな被害につながる場合があります。

定期的に逃し弁の動作確認を行う。

万一動作不良を起こした場合、タンクが破損したり事故の原因となります。

逃し弁のレバーを操作するときは、レバーをしっかりとつまみながら操作する。

ケガのおそれがあります。

長期間使用しない場合はタンクの水を抜く。

水質が悪化するおそれがあります。

落雷の可能性がある場合は、あらかじめ電源プラグをコンセントから抜いておく。

故障の原因となります。

出湯(水)量が少なくなったら給水配管止水栓やストレーナの点検・清掃を行う。

故障や漏水の原因となります。

ストレーナの清掃をする際は、給水配管止水栓を閉めてから行う。

漏水が起き、階下などに被害をおよぼすおそれがあり、大きな被害につながる場合があります。

冬場に漏電しゃ断器、電源ブレーカー、温調ダイヤルを「OFF(切)」にするときは、水抜きを確実にする。

故障や漏水の原因となります。

⚠ 注意



長期間の使用によりタンク内に水アカがたまったり、配管材料の劣化などによって水質が変わることがあるため、固形物や変色、にごり、異臭があった場合は使用しない。健康を害するおそれがあります。

機器に乗ったり、濡れたものや洗剤などを乗せたり、配管に力を加えたりしない。故障、漏水の原因になります。

この機器を車両、船舶では使用しない。故障、感電、漏水の原因になります。

設置上のご注意

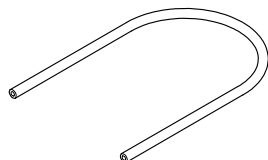
- 給水・給湯・排水配管の立ち上げ及び接続等の配管工事は、水道局指定工事店に依頼し、関連する法令・規定に従って、必ず「有資格者」が行ってください。
- 設置作業中は手袋を着用してください。金属端面によるけがを防ぎます。
- この製品はAC100Vで動作する機器です。
- 太陽熱温水器(ソーラー温水器)や他温水器との接続はできません。
- 水は水道法の飲料水水質基準に適合した水道水を使用してください。水道水であっても塩分、石灰分、その他不純物が多く含まれている水質や酸性水質での使用は避けてください。井戸水、地下水、温泉水はスケールが付着しやすくなり、また温水器をご使用いただく期間の水質が常に水道法の定める水質基準内である担保が取れないため、使用しないでください。
- 給水圧力を確認し、最低必要水圧 100kPa(流動時)、最高水圧 750kPa(静止時)でご使用ください。
750kPa(静止時)以上の場合、給水 1 次側に減圧弁を設けてください。
- 必ず給水配管止水栓を使用してください。
- 必ず膨張水排水用の排水部材 EH03または排水部材 EH-G2(純正別売部品)を取り付けてください。
詳しい取付方法は、各排水部材に付属の説明書をご確認ください。
- 温水器と湯水混合栓、給水配管止水栓を接続する配管は、ステンレスフレキ管を使用してください。組み合わせるキャビネット及び湯水混合栓によって、対応するステンレスフレキ管セットが変わります。詳しくはタカラスタANDARD(株)の総合カタログ「小型電気温水器組込対応表」をご覧ください。
- キャビネット底板が温水器満水質量に耐えられない「フラッシュ構造(栈と薄板での構成構造)」の場合や温水器固定金具のねじ固定位置が点検口に被る場合は、電温設置補強部材(純正別売部品)、または厚み 15mm 以上の木質材を使用して、強度補強を行ってください。
- キッチンに設置する場合、キャビネットを固定する部材(現地手配部品)が必要になることがあります。
詳しくはP.13「キャビネットの固定」を参照してください。
- 製品の上に乗らないでください。製品が変形します。

ご確認ください

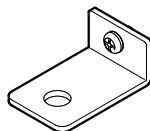
同梱物の確認

以下のものが付属されています。開梱時に確認してください。

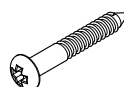
部品名	数量	備考
工事要領・取扱説明書	1	
本体固定金具	3	本体取付ネジ付
木ねじ	3	呼び5.1×20
ビニールホース(排水用)	1	内径φ10 L=400



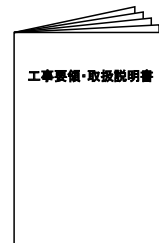
ビニールホース(排水用)



本体固定金具



木ねじ



工事要領・取扱説明書

純正別売部品

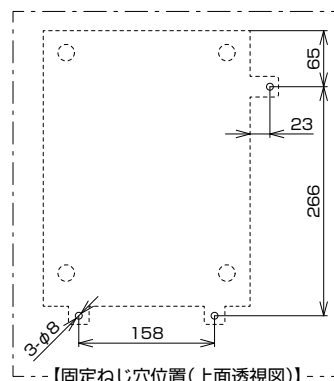
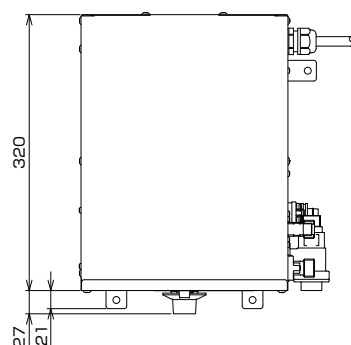
- 組み合わせるキャビネット及び湯水混合栓によって、対応するステンレスフレキ管セットが変わります。詳しくはタカラスタンダード(株)の総合カタログ「小型電気温水器組込対応表」をご覧ください。
- 設置に必要な排水部材は別売部品となっています。設置に関する詳細は、各排水部材に付属の説明書をご覧ください。
- 改良のためにお断りなしに変更、追加する場合があります。

部品名	内容物	備考
排水部材 EH03A	排水部材(φ32用) 説明書	φ32(VP25)
排水部材 EH-G2A	排水部材(G2ねじ用) 説明書	流入側：G2ねじ 流出側：φ48(VP40) ※接続する排水トラップの口径がG1・1/2の場合は、G2の口径へ変換が必要です。
逃しホースセット(0.7M)A	逃しホース 0.7m ホースバンド2個、ホースアダプタ 1個、 M14袋ナット 1個 説明書	
電温設置補強部材	t15×390×365mm 補強板 3種 t15×390×167mm t15×100×100mm	温水器設置面裏貼り補強用 強度補強枠用 コンセント裏貼り用
ステンレスフレキ管セット E	ステンレスフレキ管 3本(200mm、 200mm、700mm) バックイン 6個、ニップル 2個	
ステンレスフレキ管セット F	ステンレスフレキ管 3本(500mm、 600mm、700mm) バックイン 6個、ニップル 2個	
ステンレスフレキ管セット G	ステンレスフレキ管 3本(250mm、 300mm、900mm) バックイン 6個、ニップル 2個	

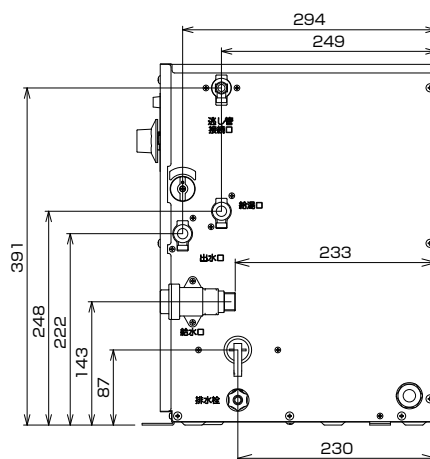
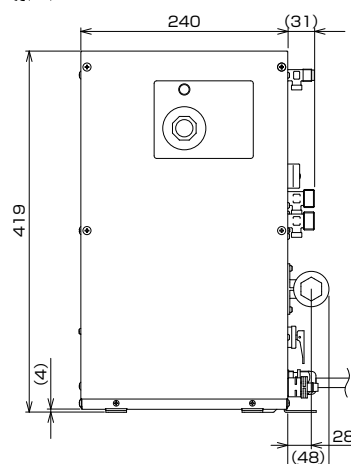
製品について

外形寸法

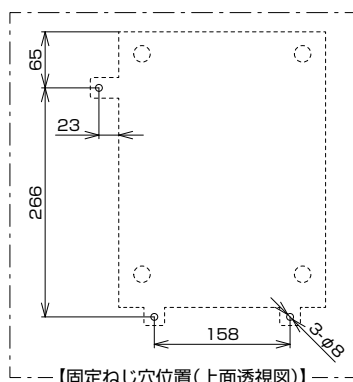
ESN12ARN107E1 / ESN12ARX111E1



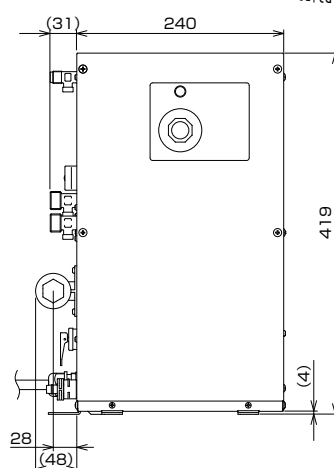
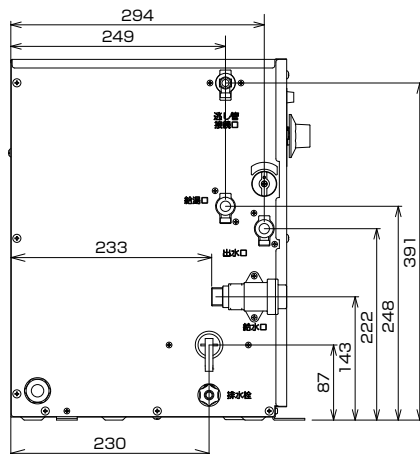
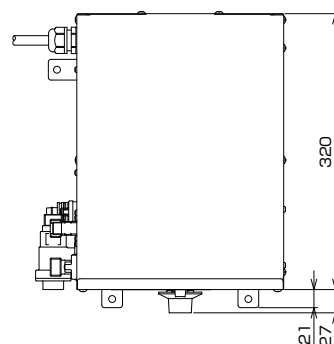
【固定ねじ穴位置(上面透視図)】



ESN12ALX111E1



【固定ねじ穴位置(上面透視図)】



設置・ご使用の前に

設置

使いかた

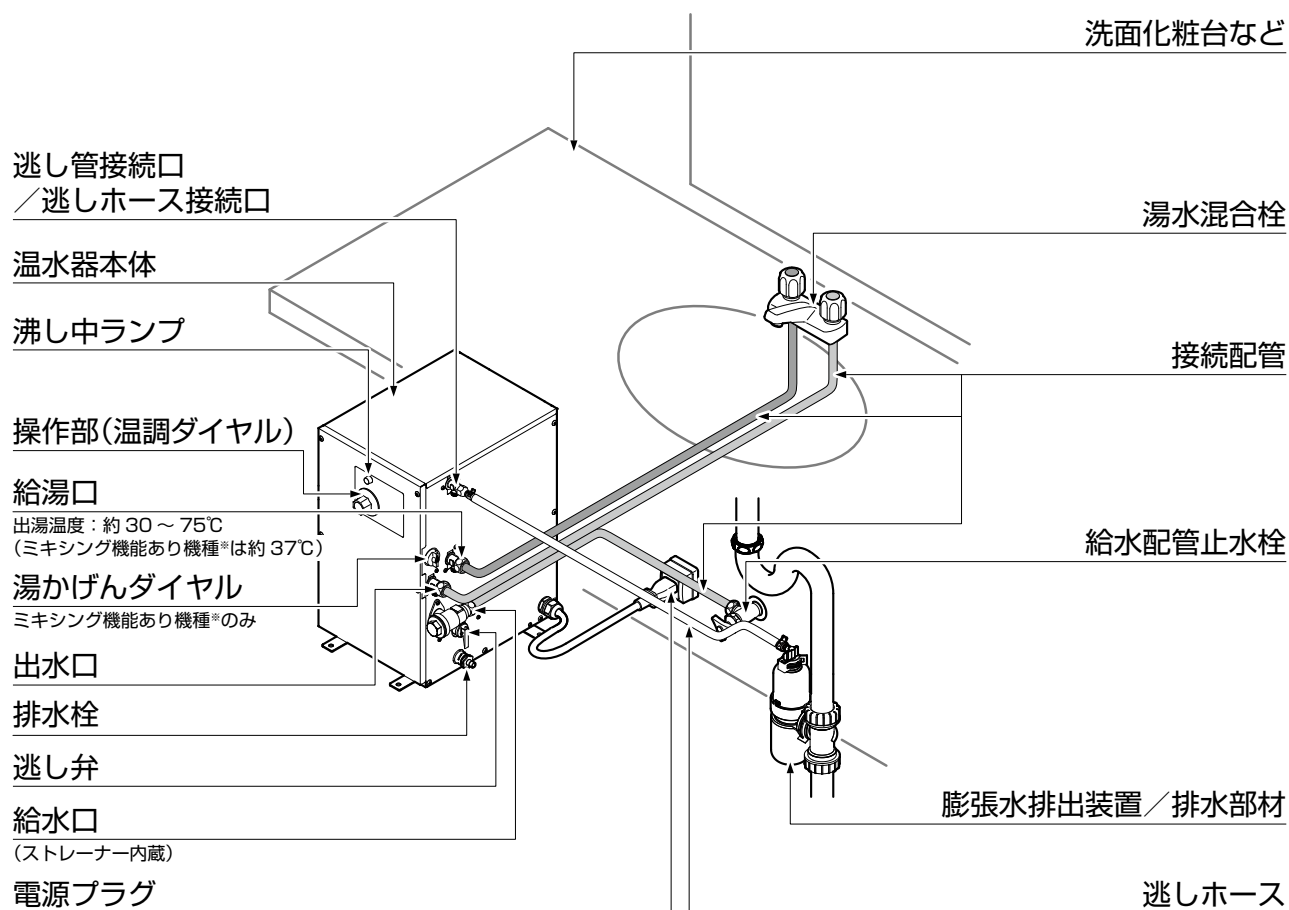
お手入れ

こんなときは

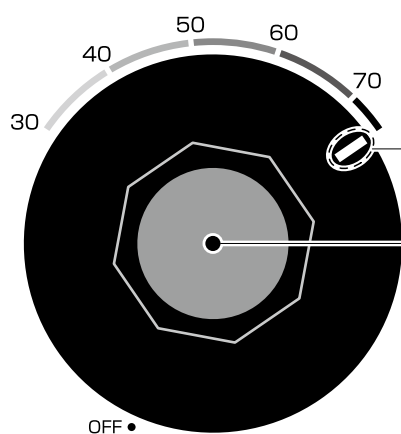
各部のなまえ

★製品・部品によって形状は異なります。

下図の温水器の設置環境は一例のため、実際とは異なる場合があります。



※「ミキシング機能あり機種」とは、ESN12ALX111E1およびESN12APX111E1を指します。



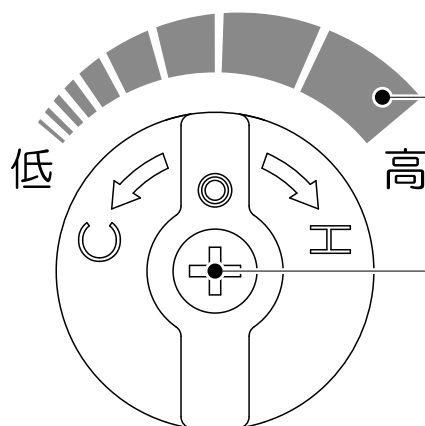
温調マーク

沸かし上げ温度の設定や運転を OFF するときの目印です。
(最大約 75℃)

温調ダイヤル

運転 ON / OFF の切り替えや沸かし上げ温度の設定をするときに使用します。
(沸かし上げ温度の目安：約 30 ～ 75℃)

**ESN12ALX111E1
ESN12ARX111E1** のみ



温調マーク

ダイヤルを設定するときの目印です。

湯かげんダイヤル

左右に回すことにより混合湯の出湯温度を調節することが可能です。
工場出荷時は約37℃に調節されています。

出湯温度調節範囲

給水温度の目安	温度調節可能範囲目安
約 5℃	約 33 ～ 42℃
約 15℃	約 34 ～ 43℃
約 25℃	約 35 ～ 41℃

※沸かし上げ温度：75℃時(沸かし上げ直後)、
出湯流量：3L/minの場合。

※出湯温度の調節範囲は給水温度により変動します。

仕様

型 番		ESN12ARN107E1	ESN12ALX111E1	ESN12ARX111E1
貯 湯 量 (L)		約 12		
定格	電 圧 (V)	単相 100		
	周波数 (H z)	50 / 60		
	消費電力(kW)	0.7	1.1	
出 湯 温 度		約 30 ～ 75℃	工場出荷時約 37℃(温度調節可能範囲約 34 ～ 43℃) ※ 1 ※ 2	
設 定 温 度 範 囲		30 ～ 75℃		
外形寸法(mm) 幅×奥行×高さ		240× 320× 419		
満 水 質 量 (k g)		約 21		
使用 条件	設置環境温度	0 ～ 40℃(凍結しないこと)		
	一次側使用水温	40℃ 以下(凍結しないこと)		
	使用水压	100(流動時)～ 750(静止時)kPa		
	最高使用圧力	0.1MPa		
	設 置 場 所	屋内		
主要 部品	ヒ ー タ ー	シーズヒーター		
	逃 し 弁	95kPa		
	減 圧 弁	80kPa		
	電 源 コ ー ド	1.0m		
安 全 装 置		空焚き・過昇温検出		

※1: お湯の出はじめに瞬間的に温度が高くなる場合があります。(約 43℃)

※2: 沸かし上げ温度…75℃、給水温度…15℃、出湯流量…3L/minの条件下における温度です。

沸かし上げ時間の目安

貯湯量	定格電圧	型番	沸かし上げ時間※1			使用範囲の 目安(人)※2
			給水温度(タンク内満水温度)			
			5℃	15℃	25℃	
12L	100V	ESN12ARN107E1	84分	72分	60分	約 50
		ESN12ALX111E1 ESN12ARX111E1	54分	46分	39分	

※1: 沸かし上げ温度 75℃の場合。

※2: 手洗い用として、1人当たり0.5リットル、37℃の使用を想定して算出。(給水15℃、沸かし上げ温度 75℃)

国土交通省告示第 1447 号 (平成 25 年 4 月 1 日施行) に適合した設置が必要です。必ず当社指定の設置を行ってください。

据付場所の選定

- 据付場所はお客様と相談し、各都市の火災予防条例に従って、決めてください。
- 本体が故障したときの修理や交換ができるように考慮してください。
- 天井裏など日常点検ができない場所には設置しないでください。
- 温水器満水時質量に耐えられる十分な強度*を持った水平な場所に据え付けてください。
※温水器据付箇所の底板裏面に電温設置補強部材(純正別売部品)または厚み15mm以上の木質材を使用し、支えを床面から底板までの高さで入れる等の補強をする。
- この温水器はホーローキャビネットへの設置はできません。
- 火気、引火物の近くに設置しないでください。
- 屋外や表面に結露が生じるような湿気の多い場所、水がかかる場所、特に浴室やシャワールームには取り付けしないでください。
- 気温が0℃以下になる場所には設置しないでください。
- 配管による放熱ロスを少なく、また、湯待ち時間を短くするため、給湯配管が最短になる場所をお選びください。
- 電源コードの長さや曲げ半径には限りがありますので、電源コード(約 1.0m)の曲げ半径 27mm 以上でコンセントに届く場所をお選びください。
- 建築物の可燃物からの離隔距離は0cm以上です。
ただし、保守点検できるスペースを確保してください。

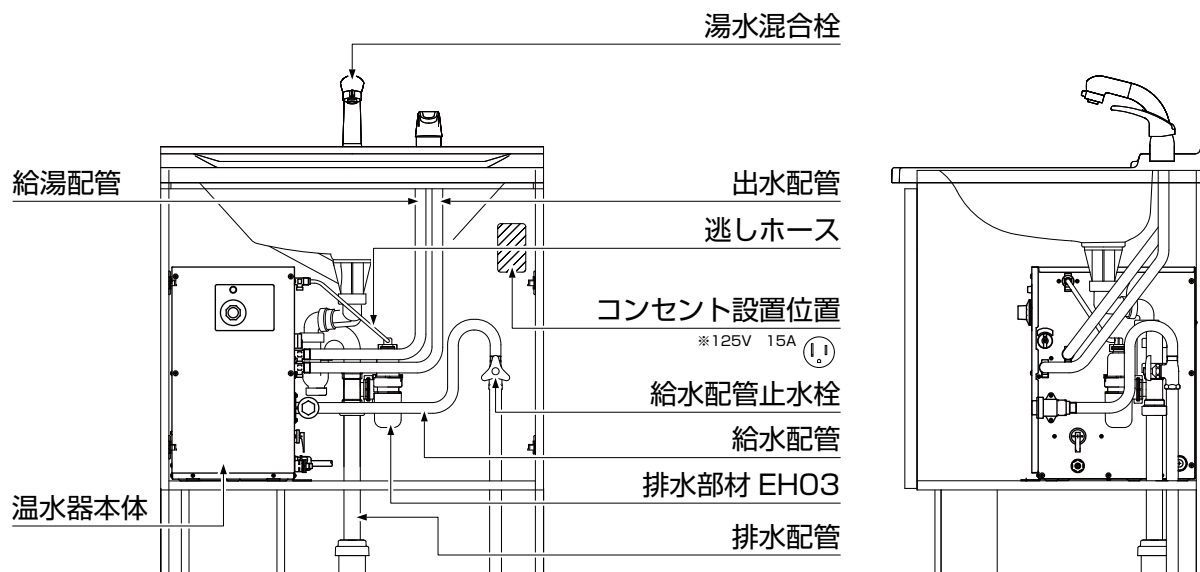
消防法 基準適合 組込形

この温水器は消防庁告示第一号(対象火気設備等及び火気器具等の離隔距離に関する基準)に適合しています。

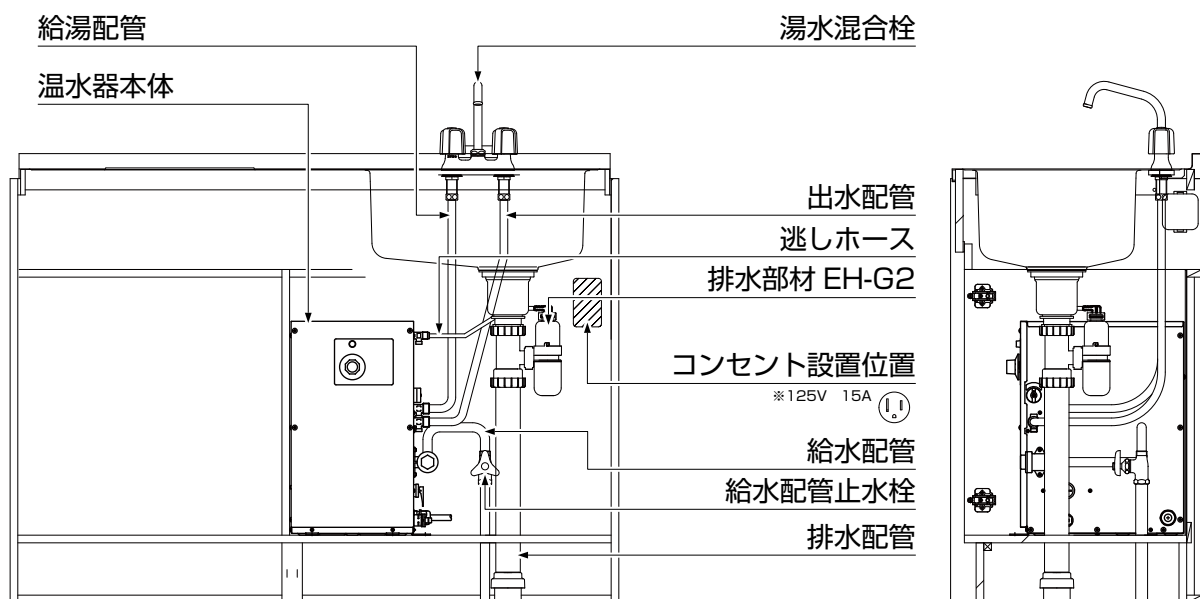
場所	上方	左方	右方	前方	後方	下方
離隔距離(cm)	0	0	0	0	0	0

標準設置例

洗面化粧台



ミニキッチン



キャビネットの補強

- キャビネット底板が温水器満水質量に耐えられない「フラッシュ構造(栈と薄板での構成構造)」の場合や温水器固定金具のねじ固定位置が点検口に被る場合は、電温設置補強部材(純正別売部品)、または厚み15mm以上の木質材を使用し、下記に従い強度補強を行ってください。

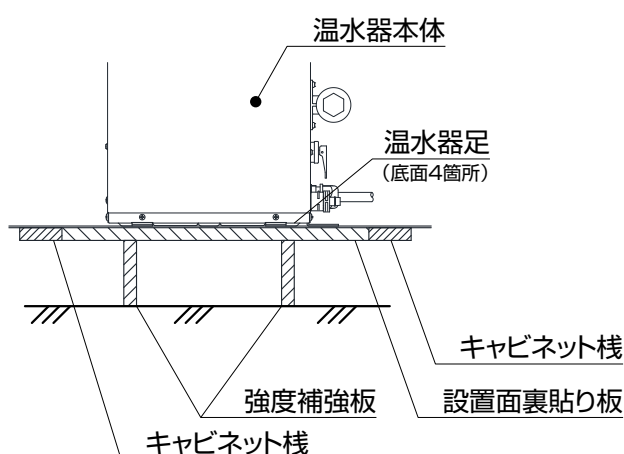
【電温設置補強部材】

キャビネットに合わせてカットして使用してください。

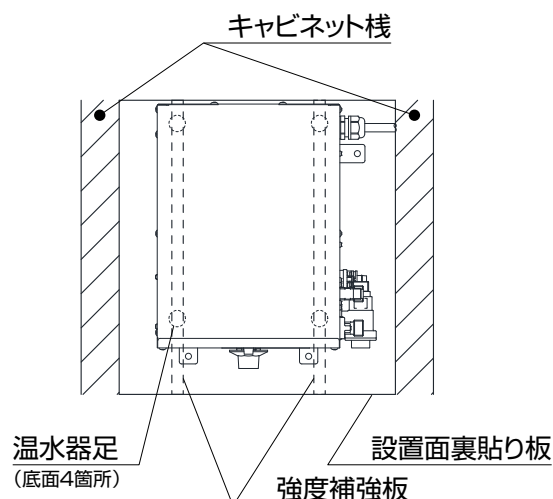
部品名	数量	備考
設置面裏貼り板	1	温水器のねじ打ち箇所の補強および設置面の荷重を支えるための部材 パーティクルボード、t15×390×365mm
強度補強板	2	温水器の荷重を支えるための部材 パーティクルボード、t15×390×167mm
コンセント裏貼り板	1	コンセント取り付け部の部材 パーティクルボード、t15×100×100mm

【補強例】

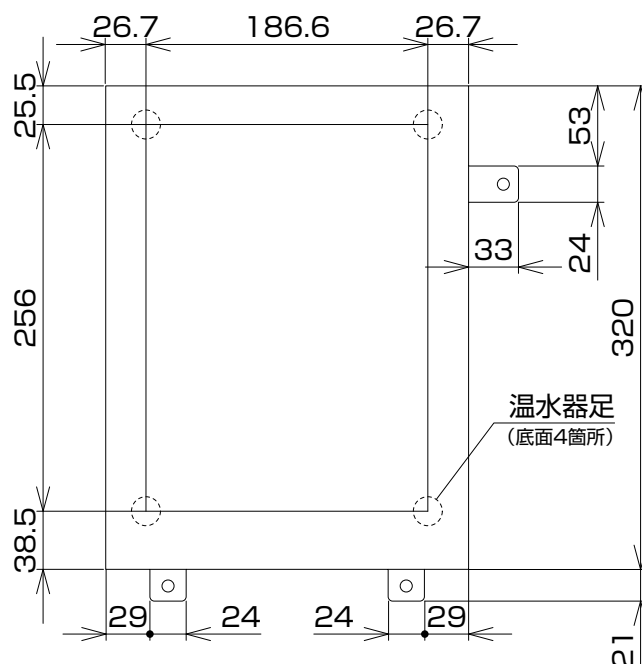
<正面図>



<上面透視図>



<温水器足位置(上面透視図)>



※温水器固定金具位置、および固定穴等の寸法はP.17を参照ください。

- ①台輪高さや棧の位置は、キャビネットごとに異なりますので、必要に応じて温水器の設置位置に合わせて設置面裏貼り板および強度補強板をカットしてください。
設置面裏貼り板は固定金具穴位置より外側に10mm以上大きくなるようにしてください。
温水器固定金具のねじ固定位置が点検口に被る場合は、点検口の開口に合わせて設置面裏貼り板をカットしてください。
- ②キャビネットを倒し、底板(薄板部)の電気温水器設置位置の裏面や点検口蓋裏面に設置面裏貼り板を木工用ボンド(速乾タイプ、F☆☆☆☆)で取り付けてください。
- ③強度補強板を電気温水器の足が乗る位置に木工用ボンド(速乾タイプ、F☆☆☆☆)で取り付けてください。
- ④キャビネット背板のコンセントを取り付ける位置の裏面に必要に応じてコンセント裏貼り板を木工用ボンド(速乾タイプ、F☆☆☆☆)で取り付けてください。

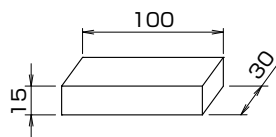
キャビネットの固定

- キャビネットが壁面に固定出来るか確認してください。
固定出来る場合は、キャビネットに付属の設置説明書に従い、キャビネットの固定を行ってください。
固定出来ない場合は、下記手順に従い、キャビネットの固定を行ってください。

【次の手順で必要となる現地手配部品】

部品名	数量	備考
ヒモ棧	2	t15 × 30 × 100mm 程度の木質板
皿タッピンねじ	2	4 × 35 ~ 40mm
トラスタッピンねじ	4	3.5 × 50mmより長いもの
ねじキャップ座金	2	
ねじキャップS<黒>	2	

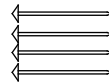

ねじキャップ座金



ヒモ棧



皿タッピンねじ

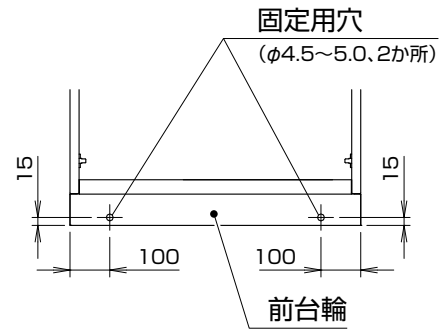


トラスタッピンねじ



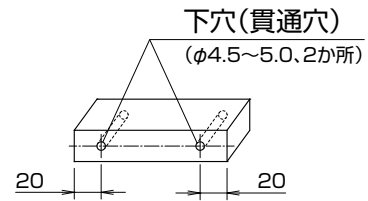
ねじキャップS<黒>

- ①キャビネット前台輪に ϕ 4.5 ～ 5.0の固定用穴(2か所)を開けてください。

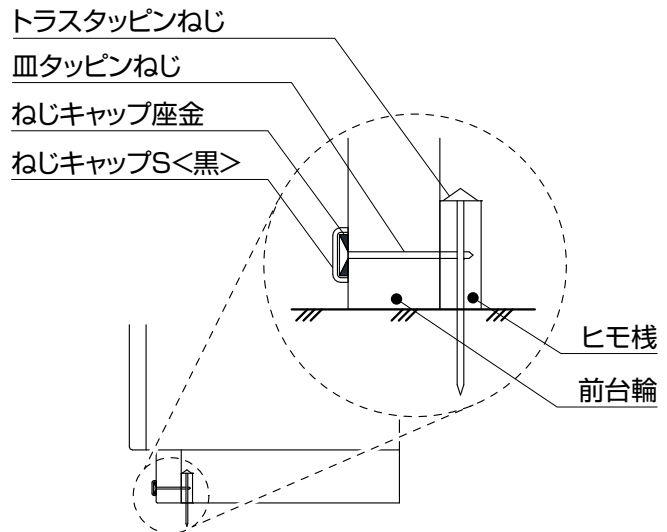


【キャビネット正面図】

- ②ヒモ棧に ϕ 4.0 ～ 4.5の取付用下穴(2か所、貫通穴)を開けてください。



- ③トラスタッピンねじ(現地手配部品：4本)を使用して、前台輪の固定用穴(左右 2か所)が中心になるようにヒモ棧を床面に取り付けてください。
- ④皿タッピンねじ(現地手配部品：2本)、ねじキャップ座金(現地手配部品：2個)、ねじキャップ S<黒>(現地手配部品：2個)を使用して、前台輪をヒモ棧に固定してください。



排水部材の取り付け

※排水配管は直管配管が必要です。蛇腹配管は使用できません。

洗面化粧台への設置の場合、壁排水(Pトラップ)設置はできません。排水部材が水栓等に干渉します。

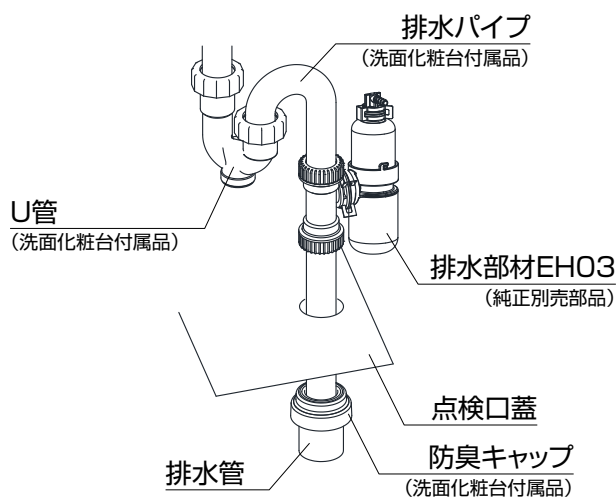
※エリシオ(ハイバックカウンター、アクリル人造大理石(奥行 60cm)およびポリエステル人造大理石)の場合、床面排水配管の位置を洗面化粧台設置説明書に記載の65mmから、75mm(元の位置から手前へ10mm)へ変更して設置してください。

●膨張水の排水処理は、必ず純正別売部品の排水部材 EH03または排水部材 EH-G2を使用してください。

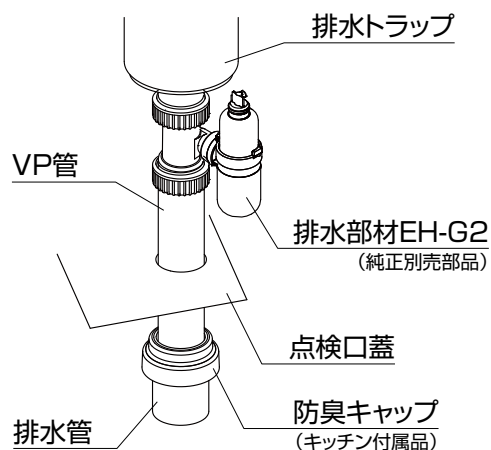
①排水部材を取り付けてください。

取り付け方の詳細は、各排水部材に付属の説明書をご確認ください。

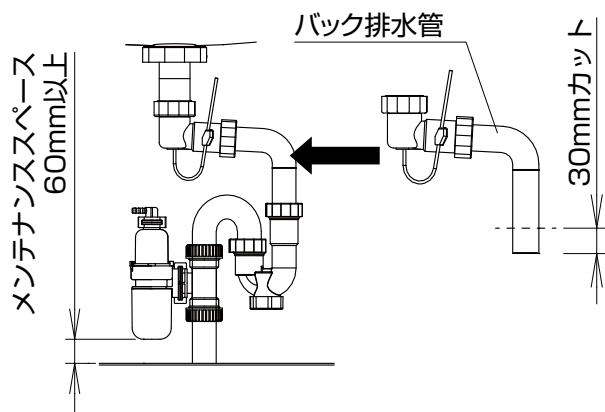
排水部材 EH03 取付例(洗面化粧台)



排水部材 EH-G2 取付例(ミニキッチン)



※エリシオ(ホーロー製ハイバック洗面ボウル)の場合、排水部材のメンテナンススペースを確保するため、バック排水管を30mm切断してください。



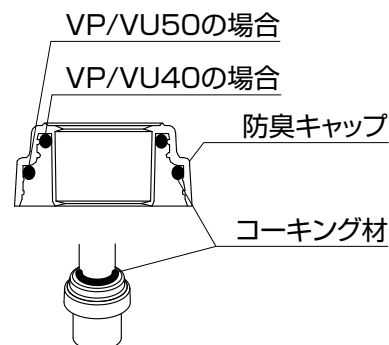
パイプカッター等を利用し、変形しないように切断する。

漏水の原因となります。

カットしたパイプの端面は、バリ取りを行い、外周面取り処理を行う。

台形パッキンを傷つけ、漏水の原因となります。

- ②防臭キャップ内面全周にコーキング材を塗布します。
※排水管の種類(径)によりコーキング材を塗布する位置が異なります。
- ③排水パイプやVP管を排水管に差し込み、防臭キャップをしっかりと排水管に被せます。
- ④防臭キャップと排水パイプやVP管の隙間をしっかりとコーキングします。
- ⑤各配管接続部の袋ナットを手で強く締め付けます。



注意

給水・給湯管、シャワーホース、ポップアップワイヤー等に干渉しないように排水パイプや排水部材の取付向きを調整する。

漏水の原因となります。

袋ナットは、パイプレンチ等の工具を使用せず手で強く締め付ける。

工具等で無理に締め付けると破損の原因となります。

台形パッキンは、向きを逆にしたり、歪んだ状態で締め付けない。

漏水の原因となります。

排水パイプやVP管はトラップに突き当たるまで差し込む。

漏水の原因となります。

防臭キャップの隙間はしっかりとコーキングする。

臭気や湿気が漏れる原因となります。

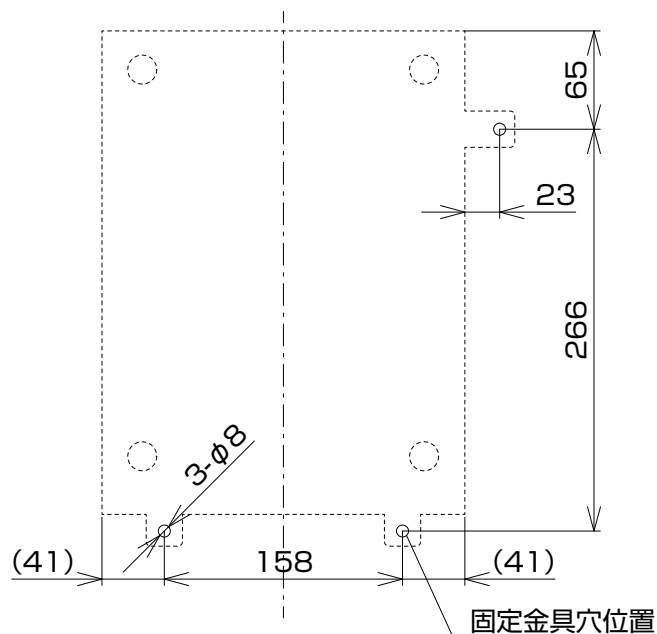
作業終了後、各配管接続部の袋ナットを増し締めする。

漏水の原因となります。

温水器本体の据付け

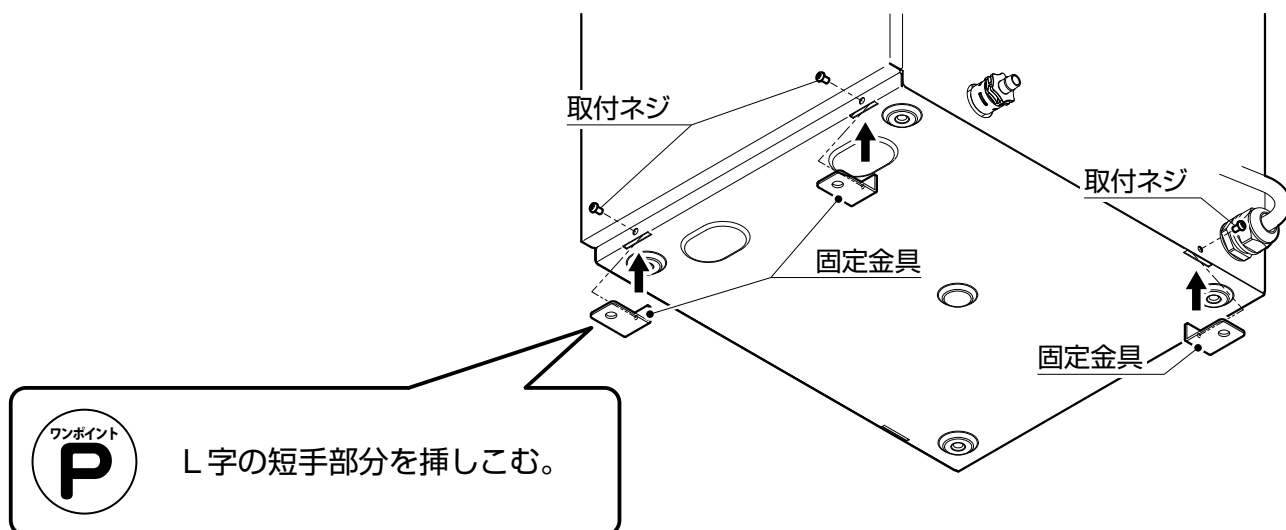
固定金具ねじ穴位置の野書き

- ① 温水器を取り付ける位置を決め、床に固定金具を取り付けるためのねじ穴位置を3箇所野書き、下穴($\phi 3.6$)を開けてください。



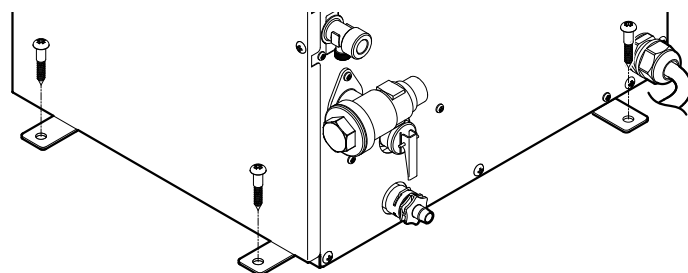
固定金具の取り付け

- ① 本体底面の取付用溝に固定金具を挿しこみ、取付ネジ(固定金具付属品)で締めてください。



本体の取り付け

- ① 固定金具の穴位置を下穴と合わせ、付属の木ねじで温水器本体を固定してください。



配管接続

配管接続をする前に

- 水は水道法の飲料水水質基準に適合した水道水を使用してください。水道水であっても塩分、石灰分、その他不純物が多く含まれている水質や酸性水質での使用は避けてください。井戸水、地下水、温泉水はスケールが付着しやすくなり、また温水器をご使用いただく期間の水質が常に水道法の定める水質基準内である担保が取れないため、使用しないでください。
(水質に起因した不具合が発生した場合、無償保証できません。)
- 給水圧力を確認し、最低必要水圧 100kPa(流動時)、最高水圧 750kPa(静止時)でご使用ください。
750kPa(静止時)以上の場合、給水 1 次側に減圧弁を設けてください。
- 温水器と湯水混合栓、給水配管止水栓を接続する配管は、ステンレスフレキ管を使用してください。
- 温水器と湯水混合栓の配管長は最短になるようにしてください。
配管長が長くなると、湯や水の出が悪くなったり、湯が出るまでの待ち時間が長くなったりします。
- 冬期などの水抜きの際に、配管の引き回し上、配管内の水が抜けない場合、配管内の水が抜けるように水抜き栓などを設けてください。
- 建築躯体側配管の接着剤が乾燥していない状態で温水器を接続しないでください。
(接着剤が乾いていない状態で湯水を通すと湯が臭ったり、故障の原因となることがあります。
必ず接着剤が乾いていることを確認してから配管してください。)
- 配管接合部のシール材やパッキンは使用配管材と同様、耐熱、耐食性のある材料のものを使用してください。
- 標準配管例はP.7「各部のなまえ」を参照してください。

湯水混合栓－温水器間

- 湯水混合栓の種類によって給湯配管、出水(同圧給水)配管の接続方法が異なりますので、湯水混合栓の説明書に従って、接続してください。
- 湯水混合栓に引き出しホースがある場合、引き出しホースが給水配管止水栓等に引っかからないように調整してください。



注意

- 配管接続時は、無理な力が他に加わらないようにダブルスパナ掛けで作業する。
- 給湯配管と出水(同圧給水)配管を逆に接続しない。
- 配管の接続部にパッキンがあることを確認する。

給水配管止水栓－温水器間

- 給水配管止水栓を必ず使用し、お客様が操作しやすい場所に取り付けてください。
- 寒冷地の場合は、配管内の水抜きが必要ですので、下記のことを必ず守ってください。
 - ・ 給水配管止水栓は水抜き可能な寒冷地仕様のものを使用する。
 - ・ 給水口から給水配管止水栓へ下り勾配になるようにする。



注意

- 配管接続時は、無理な力が他に加わらないようにダブルスパナ掛けで作業する。
- 配管内のゴミなどを取り除くため、給水配管を接続する前に必ず給水配管止水栓を開け、バケツなどに十分に通水(20L 程度)してから接続する。
- 配管の接続部にパッキンがあることを確認する。

逃しホースの取り付け

- 必ず純正別売部品の逃しホースセット(0.7M)Aを使用してください。
- 逃しホースは、現地の配管状況に合わせ、適切な長さに切断してください。
- 逃しホース取り付け後、下記のことを必ず守ってください。
 - ・排水部材が他の配管に干渉していたり、傾いていないか確認してください。
 - ・排水部材及びトラップすべての袋ナットを手で強く増し締めしてください。



注意

逃しホースは、折れ、つぶれ、たるみの無いようにし、接続部を付属のホースバンドでしっかりと接続する。

漏水の原因となります。

排水部材およびトラップの袋ナットを増し締めする。緩めていなくても必ず増し締めする。

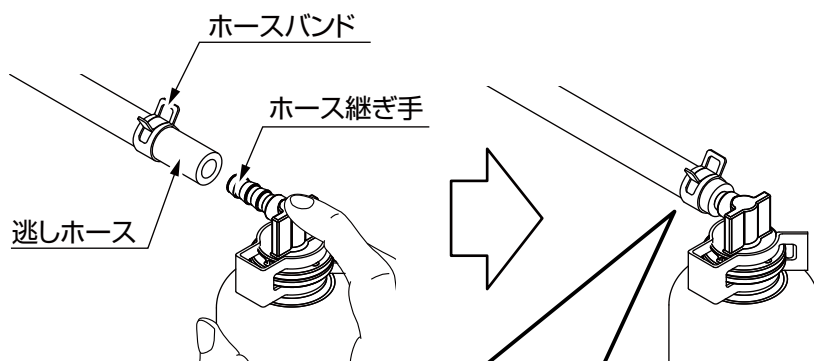
漏水の原因となります。

袋ナットは、パイプレンチ等の工具を使用せずに手で強く締め付ける。

破損の原因となります。

①逃しホースにホースバンドを取り付けます。

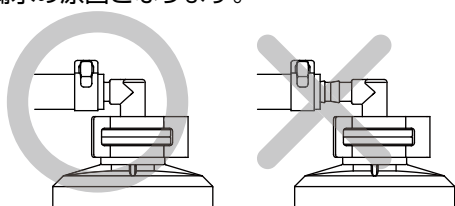
②排水部材を手で押さえながらホース継ぎ手に逃しホースを差し込み、ホースバンドでしっかり固定します。



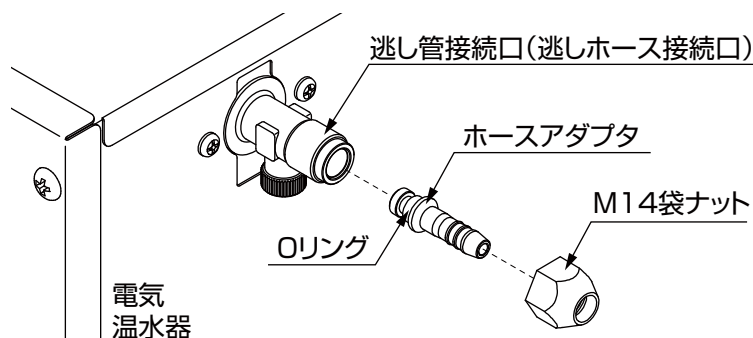
注意

奥まで確実に差し込む。

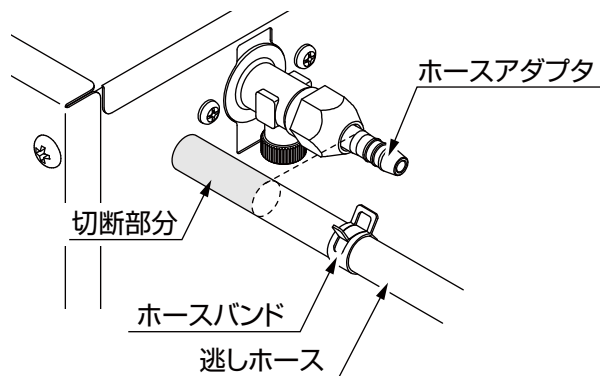
漏水の原因となります。



③電気温水器の逃し管接続口(逃しホース接続口)にホースアダプタ、M14袋ナットを取り付けます。



- ④ 逃しホースがたるまないよう長さを調節し、切断してください。
(ホースをつぶさないように切断してください。)



注意

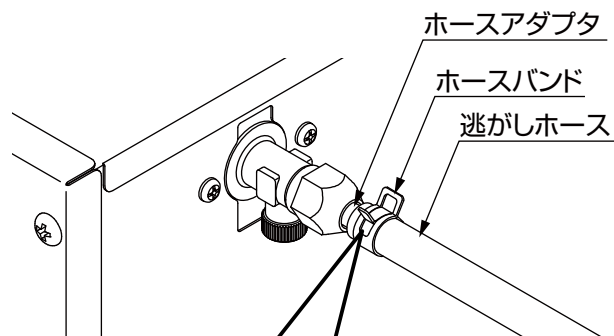
はさみなどを用いて、切断面が垂直になるように切断する。

漏水の原因となります。

逃しホースが長すぎると、折れ曲がり排水ができなくなります。

漏水の原因となります。

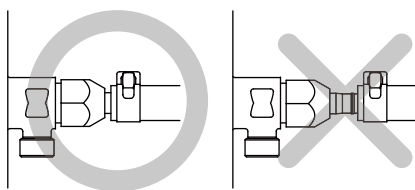
- ⑤ ホースアダプタに逃しホースを奥まで確実に差し込み、ホースバンドでしっかり固定します。



注意

奥まで確実に差し込む。

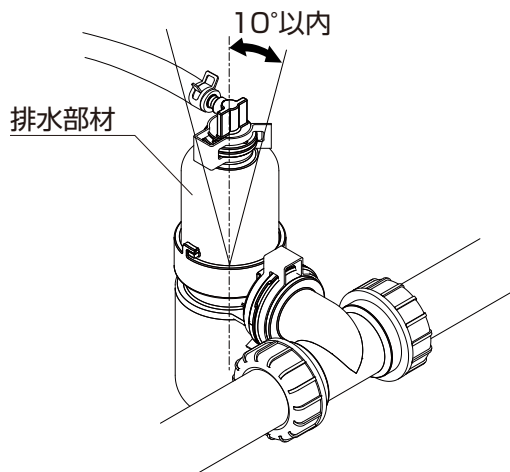
漏水の原因となります。



注意

**排水部材の傾きが、鉛直に対して
全方向 10° を超える取り付けは
避ける**

動作不良の原因となります。



電気工事

- ①電源一次側に漏電ブレーカを取り付け、D種接地工事を行ってください。
- ②接地極付電源プラグを使用しているため、必ず接地極付コンセントを使用してください。

⚠ 警告	電気工事は「電気設備に関する技術基準」および「内線規程」に従って、電気工士が行い、必ず温水器のアース工事は、D種接地工事を行う。 またアース線は、ガス管・水道管・避雷針・電話などへの接続や共用アースを行わない。 故障や漏電のときに感電の原因になります。 定格 15A 以上の交流 100V 専用コンセント(接地極付き)を単独[*]で使う。 発熱して、火災の原因になります。
⚠ 注意	タンクを満水にしてから電源を入れる 故障の原因となります。

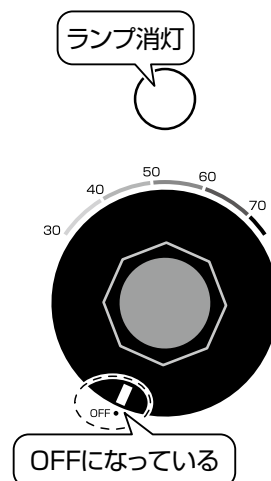
※キャビネットのコンセントとは別系統にしてください。

試運転

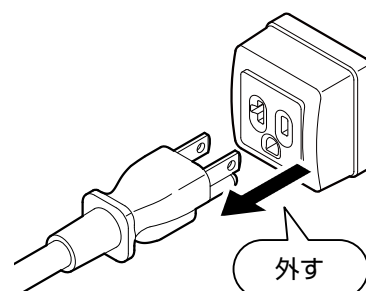
⚠ 注意	■温水器に給水する前は、絶対に通電しない。電源プラグをコンセントに差し込まない。
-------------	---

温水器に給水する

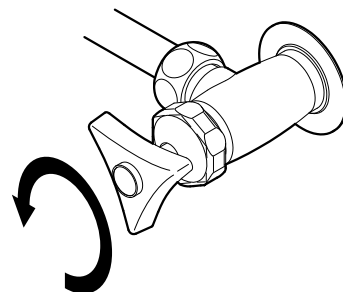
- ①温調ダイヤルがOFFになっている(沸し中ランプが消灯している)ことを確認してください。



- ②電源プラグがコンセントから外れていることを確認してください。
外れていない場合は、電源プラグをコンセントから外してください。



③給水配管止水栓を開いてください。



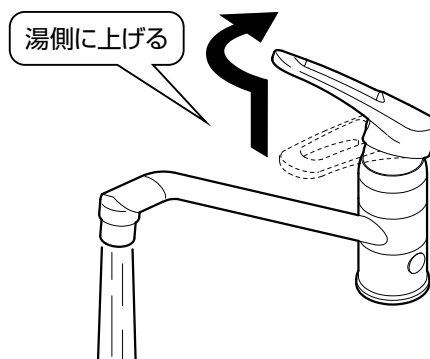
④湯水混合栓の湯側を全開にして、温水器のタンクが満水になるまで(水の量が安定するまで)流し続けてください。

※温水器のタンクが満水になるまでは空気を含んだ水が出ます。

湯水混合栓

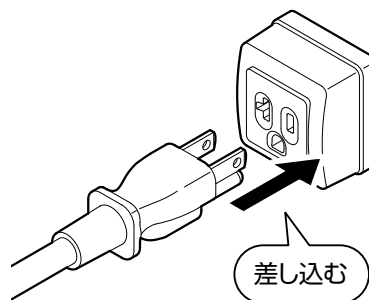


シングルレバー湯水混合栓

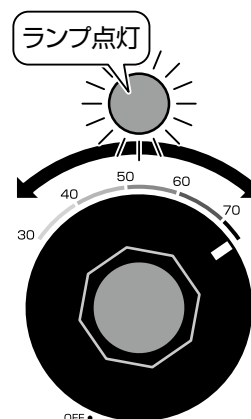


⑤水の量が安定したら湯水混合栓を閉め、温水器本体及び配管、排水部材、排水トラップなど各種接続部からの漏水がないか確認する。

⑥電源プラグをコンセントに差し込む。



⑦温調ダイヤルをOFFの位置から任意の沸かし上げ温度まで回し、沸し中ランプが点灯することを確認した後、OFFに戻す。



試運転後のお願い

- 温水器給水口のストレーナを掃除してください。作業時は必ず給水配管止水栓を閉じて行い、作業終了後に再び開けてください。
※ストレーナの清掃方法はP.30を参照してください。
- 過昇温防止装置のリセットは、P.35を参照してください。

設置完了チェックシート

設置が完了しましたらお客様に温水器を引き渡す前に、設置の確認とP.21「試運転」を行ってください。

試運転は、必ずお客様に立ち会っていただき、運転操作はもとより操作上の注意、凍結予防方法などをよく説明し、理解を深めていただくようにしてください。

項目	チェック内容	チェック			
据付	保守点検、交換のできるスペースがありますか。	☐			
	火気、引火物から離れていますか。	☐			
	据え付け下台の強度は満水時質量に十分耐えますか。	☐			
	温水器とキャビネット(下台)は、付属の固定金具およびねじを使用してしっかりと固定されていますか。	☐			
	気温が0℃以下になる場所に据え付けられていませんか。	☐			
	温水器が傾いたり、キャビネット(下台)の底板から浮いたりしていませんか。	☐			
配管	温水器専用の給水配管止水栓はありますか。	☐			
	温水器から排水部材へ排水処理されていますか。 ホースがつぶれていませんか。付属のホースバンドで取り付けられていますか。	☐			
	排水部材はきちんと垂直に取り付けられていますか。(傾いていませんか。)	☐			
	防臭キャップはきちんと取り付けられていますか。コーキングされていますか。	☐			
	配管接合部のシール材やパッキンは使用配管材と同様、耐熱、耐食性のある材料のものを 使用していますか。	☐			
	凍結のおそれのある配管すべてに凍結予防は行っていますか。	☐			
	給水口のストレーナの掃除は行いましたか。	☐			
電気工事	電源はAC100Vですか。	☐			
	分電盤等に漏電しゃ断器、温水器専用の電源ブレーカーは取り付けてありますか。	☐			
	接地極付コンセントを使用していますか。	☐			
	接地極付コンセント(接地極)からのアース工事は行っていますか。	☐			
	コンセントの定格容量(定格電流)は適切ですか。	☐			
	電源プラグがコンセントに根元までしっかりささっていますか。	☐			
その他	配管各部からの漏水はないですか。	☐			
	湯水混合栓から出湯したとき排水部材や排水トラップからの漏水はないですか。	☐			
施工業者名		電話番号		担当者名	

ご確認ください

使用前の準備と確認

ご使用の前に以下のことを確認してください。

チェック内容	チェック
近くにガス類や引火物を保管していない。	☐
本体や配管の上に物を乗せていない。	☐
温水器に給水されている。(温水器が満水になっている。) ※湯水混合栓の湯側を開き、安定した水が出ることを確認する。 空気を含んだ水が出る場合にはP.21「温水器に給水する」に従い、機器に給水する。	☐
逃し弁から排水部材へ常時水が出ていない。	☐

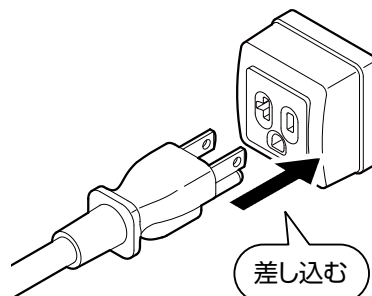
お湯を沸かす

①電源プラグをコンセントに差し込む。



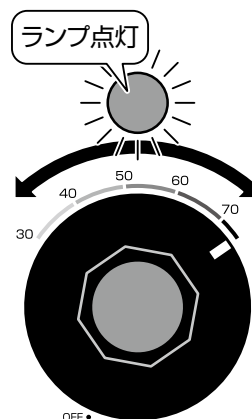
警告

電源プラグをコンセントにしっかり差し込む。
感電、ショート、発火の原因になります

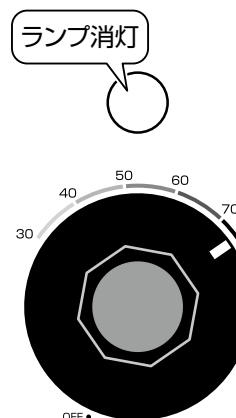


②温調ダイヤルをOFFの位置から希望する沸かし上げ温度まで回してください。
設定温度範囲：約 30 ～ 75℃

※沸かし上げ中は、温調ダイヤルの上の沸し中ランプが点灯します。



③沸かし上げが完了すると自動でヒーターへの通電が止まり、沸し中ランプが消灯します。
(沸かし上げにかかる時間の目安はP.9『沸かし上げ時間の目安』を参照)



●一度に使える湯量の目安(タンク全量が沸き上がった状態で給湯温度が約 37℃の場合)

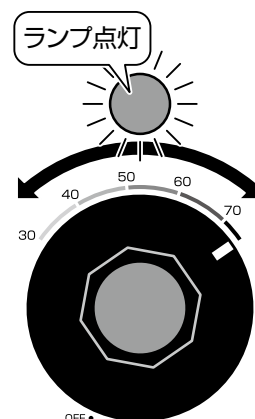
給水温度		5℃(冬期)	15℃	25℃(夏期)
一度に使える湯量の目安	75℃ 設定	26.3L	32.7L	50.0L
	60℃ 設定	20.6L	24.5L	35.0L

設定温度の変更

沸かし上げ設定温度を変更したい場合は以下の操作をしてください。

- ① 温調ダイヤルを希望する沸かし上げ温度まで回す。
沸し中ランプが点灯し、ヒーター通電を開始します。

※ 沸かし上げ温度を現在の設定温度以下に下げた場合はヒーター通電は開始しません。
また、タンク内の湯温以下に設定した場合には、タンクのお湯を使い切るか、放熱による温度低下を待たないとタンク内の湯温は設定温度になりません。



出湯する



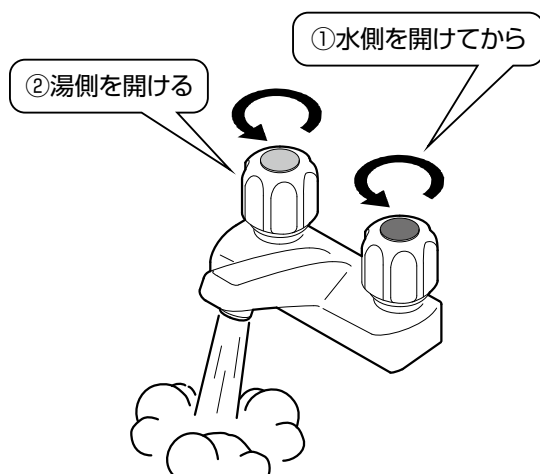
湯を出すときは、必ず先に水を出してから湯側を開き、温度を調節する。
やけどの原因となります。
沸かし上げ中の給湯や沸かし上げ後の最初の給湯時は、空気の混ざったお湯が飛び散ることがあります。



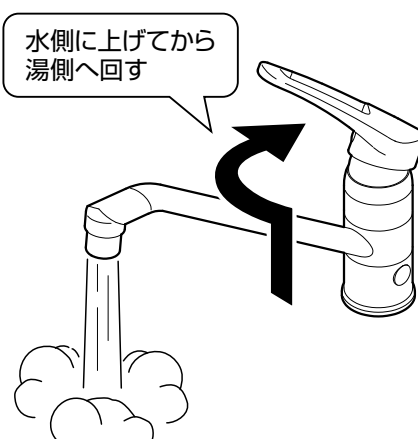
- ・ 複数箇所への給湯を同時に行った場合、流量が低下する場合があります。
- ・ 一度に使えるお湯には限りがあります。お湯を出しっぱなしにしないで、湯水混合栓をこまめに止めるなど、上手にお湯をお使いください。

- 水を出してから湯側を開き、温度を調節してください。

湯水混合栓



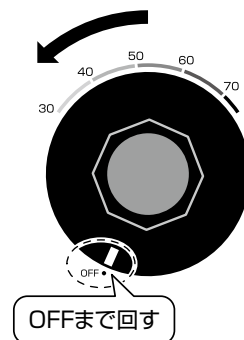
シングルレバー湯水混合栓



- ESN12ALX111E1、およびESN12ARX111E1（ミキシング機能付き機種）では湯かげんダイヤルを操作することで一定の範囲内で出湯温度を調節することが可能です。
詳細はP.8「操作部」をご確認ください。

出水する

夏場などお湯を必要としない場合は、温調ダイヤルをOFFにしてください。
OFFにした直後は、タンク内にお湯が残っているためお湯が出ますが、時間がたつと水に変わります。



お手入れの方法

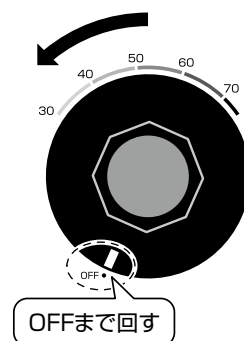
保守点検項目と実施の目安

点検項目	点検内容	実施の目安
電源コード および 電源プラグ	電源コードが熱を持っていないこと、損傷および劣化していないこと、電源プラグの締め付け部にゆるみなどの異常がないことを確認してください。トラッキング現象による火災防止のために一次側ブレーカをOFFにし、コンセント周囲やプラグを乾いた布等で清掃してください。	1回／月
重 要 逃し弁の動作確認	温調ダイヤルがOFFのときに逃し弁から排水部材へ常時水が出ていないか確認してください。(P.29『逃し弁の動作確認』参照)	
漏水全般について	本体および各配管接続部から漏水のないことを確認してください。	日常
タンク内部の清掃	給水配管止水栓および湯水混合栓の湯側を全開にしてタンク内の水を強制的に入れ替えてください。	1回／年

長期間使用しないときは

長期間、温水器をご使用にならない場合には水質劣化を防ぐため、下記の手順に沿ってタンク内のお湯を抜いてください。

- ① 温調ダイヤルをOFFまで左に回し、運転をOFFにする。



- ②電源プラグをコンセントから抜き、お湯の温度を調整し、ぬるい温度で出湯する。
完全に水になるまで出し切ったら給水配管止水栓を閉める。



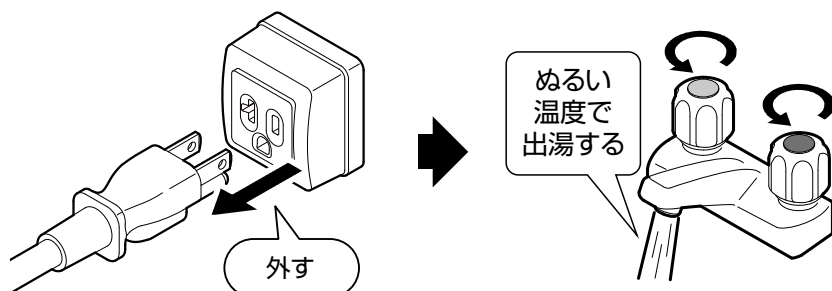
警告

必ず湯水混合栓からのお湯が水になるまで使ってから排水する。
タンクにお湯が残ったまま排水すると、やけどをするおそれがあります。
電源プラグは濡れた手で触らない。
感電の原因になります。



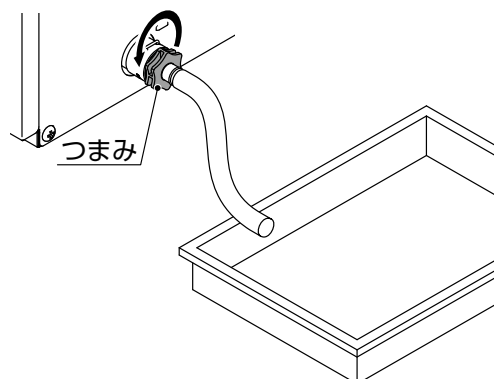
注意

湯を出すときは、必ず先に水を出してから湯側を開き、温度を調節する。
やけどの原因となります。
沸かし上げ中の給湯や沸かし上げ後の最初の給湯時は、空気の混ざったお湯が飛び散ることがあります。

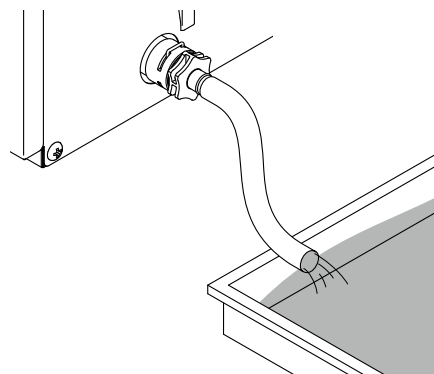
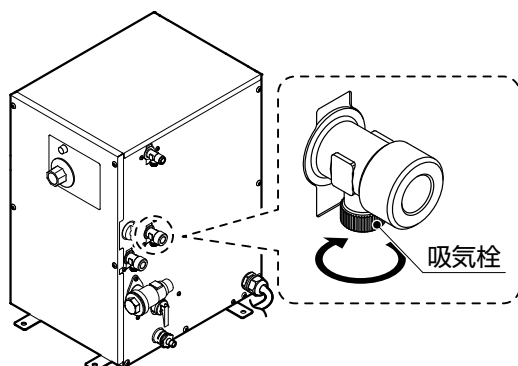


※図は湯水混合栓の場合

- ③排水を受ける容器を用意し、付属のホースを排水栓のホース挿入口にしっかりと差し込む。
排水栓を回す。



- ④給湯口の吸気栓を開き、排水する。
約 12Lの水が排出されます。(約 10分かかります。)



- ⑤排水が終了したら湯水混合栓、排水栓、吸気栓を閉める。
※再び使用する場合は、P.21『温水器に給水する』～『出湯する』の手順に従ってください。
※湯水混合栓の水抜きは、湯水混合栓の取扱説明書を参照してください。



注意

■排水栓、吸気栓が開いていると、給水時にそこから水が出てくるため確実に閉める。

短期間使用しないときは

短期間温水器を使用しない場合には、状況に応じてそれぞれ下記の対処を行ってください。

●ご使用を停止する場合

・温調ダイヤルをOFFまで左に回し、運転をOFFにしてください。

※タンクが負圧となり破損する原因となるため、給水配管止水栓を閉めないでください。

●停電の場合

・温水器の操作、給水配管止水栓の開閉等、機器や配管に対処する必要はありません。

停電からの復旧をお待ちください。

●断水の場合

・給水配管止水栓を閉め、断水が終了するまでお待ちください。

※タンクが負圧となり破損する原因となるため、運転をOFFにしないでください。

凍結防止対策

凍結のおそれがある場合は次のどちらかの方法にて機器の凍結予防措置を行ってください。

＜機器の運転を継続しつつ凍結を予防する場合＞

機内温度を氷点下にしないために、機器の通電を継続し沸かし上げを続けてください。また、凍結の可能性がある場所では各配管に対し、ヒーターや保温材を巻く等の凍結予防処置を施してください。

＜機器の運転を停止し凍結を予防する場合＞

以下の作業は販売店や施工業者様に依頼し、実施してください。

① P.26『長期間使用しないときは』の手順に従い、温水器内の水を抜きます。

※約 12Lの水が排水されます。(約 10分かかります。)

※排水が完了した後も水栓、排水栓、吸気栓は開けたままにしてください。

② 給水口の給水配管を外す、もしくは給水口手前(一次側配管)の水抜き栓を開けてください。

※水抜き後、給水口の給水配管を外した場合は外したままにし、水抜き栓を開けた場合は閉めずに開放しておいてください。水抜きが完全でない場合には温水器内部に水が残り、凍結により製品が破損してしまう可能性があります。

③ 再使用時には排水栓、吸気栓を閉めてください。また、外した給水配管を取り付け、水抜き栓も閉めてください。

④ P.21『温水器に給水する』～『出湯する』の手順に従ってください。



注意

温水器の満水を確認するまで、絶対に温調ダイヤルをOFFの位置以外にしない。
過熱し故障の原因となります。

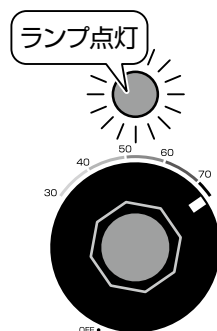
逃し弁の動作確認

逃し弁が作動しなくなるとタンクの破損や事故の原因となります。1か月に1回程度、逃し弁の動作確認を行ってください。

①沸し中ランプが点灯していることを確認する。

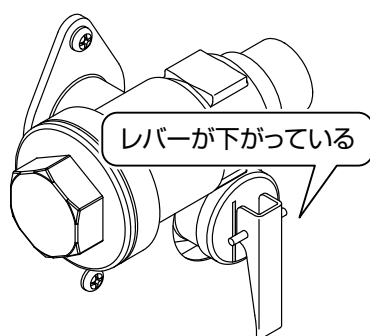
※点灯していない場合は、点灯するまでお湯を使うか、自動的に再沸かし上げするまで待ってください。

※温調ダイヤルがOFFになっている場合はON(30℃以上)にしてください。



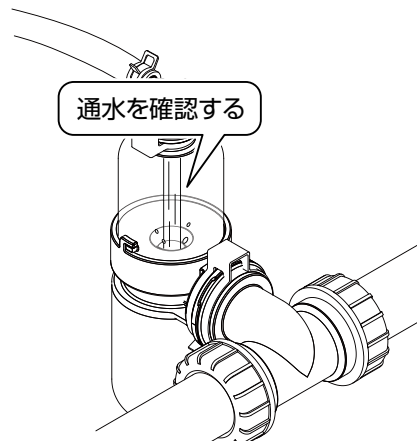
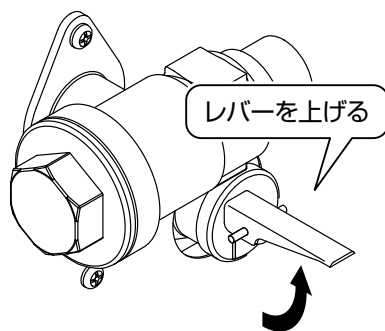
②逃し弁テストレバーが下がっていること、排水部材内で水が滴下されていることを確認する。

※正常に排水しない場合は故障ですので、P.37アフターサービス窓口までご連絡ください。



③逃し弁テストレバーを上げ、通水を確認する。

※正常に排水しない場合は故障ですので、P.37アフターサービス窓口までご連絡ください。



④排水が確認できたら必ず逃し弁テストレバーを下げ、温調ダイヤルをOFFにして水が止まることを確認する。

⑤逃し弁の動作確認が終了したら、温調ダイヤルを動作確認前の状態に戻してください。



逃し弁の内部にゴミが付着すると水が流れ続ける場合があります。

そのようなときは逃し弁レバーを立て、しばらく水を流した後で再度確認を行ってください。

それでも水が流れ続ける場合は、P.37アフターサービス窓口までご連絡ください。

ストレーナーの清掃

以下の作業は販売店や施工業者様に依頼し、実施してください。

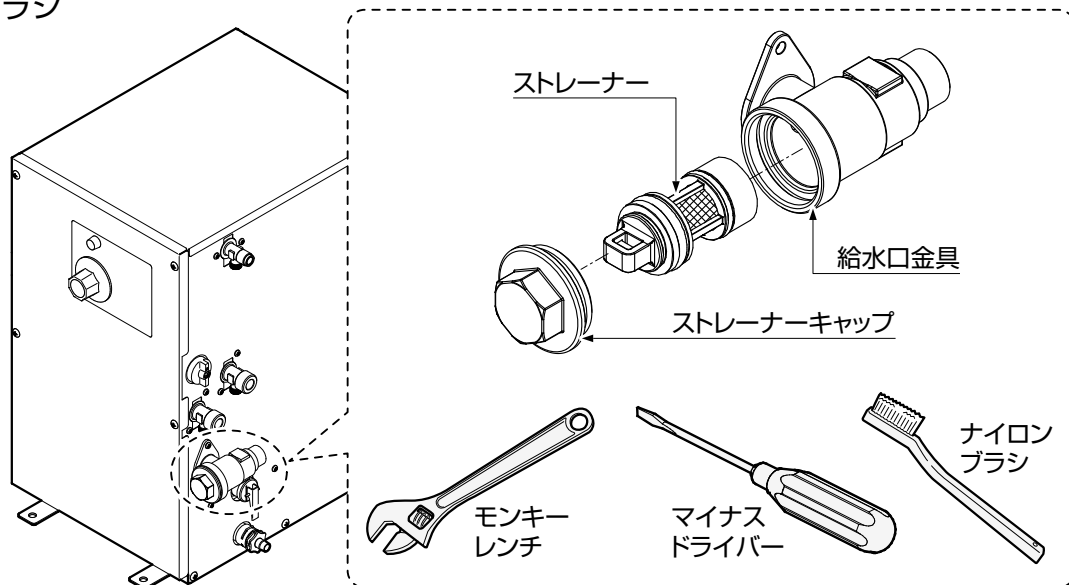
ストレーナーにゴミが詰まるとタンク内への給水量が少なくなり、機器の故障の原因となります。湯水混合栓から出るお湯(水)の量が少なくなりましたら、清掃を行ってください。

清掃前の準備

以下のものを準備してください。また下図を参照し、ストレーナーの構成を確認してください。

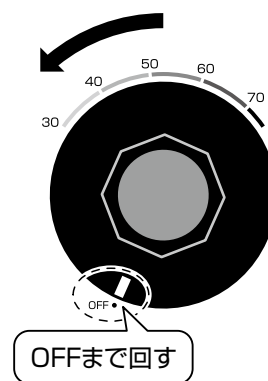
＜ご用意いただくもの＞

- ・モンキーレンチ
- ・マイナスドライバー
- ・ナイロンブラシ

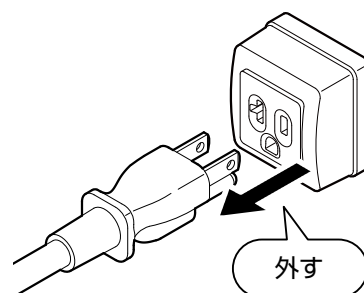


清掃の手順

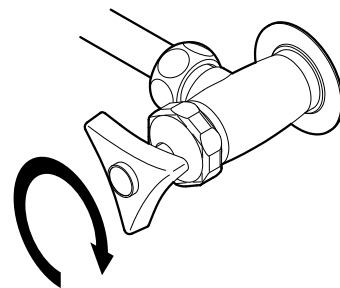
① 温調ダイヤルをOFFまで左に回し、運転をOFFにする。



② 電源プラグをコンセントから抜く。



③給水配管止水栓をしっかりと閉める。



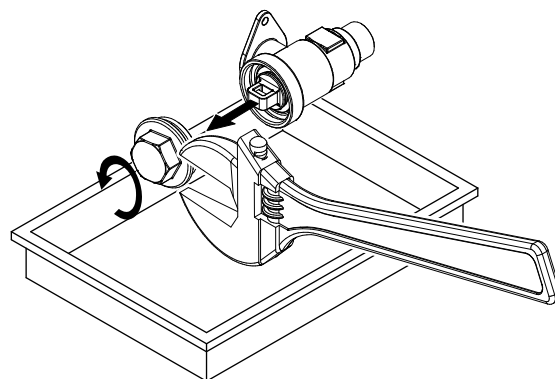
④温水器内部の圧力を逃がすため水栓のお湯側を開にした後、何も出なくなったことを確認して閉める。



※図は湯水混合栓の場合

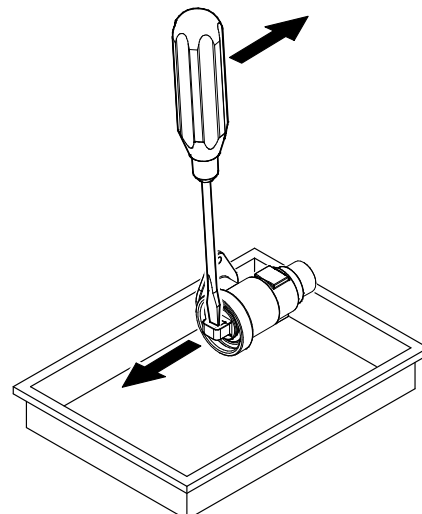
⑤ P.26『長期間使用しないときは』を参照し、排水を行う。

⑥モンキーレンチでストレーナーキャップを回して取り外す。

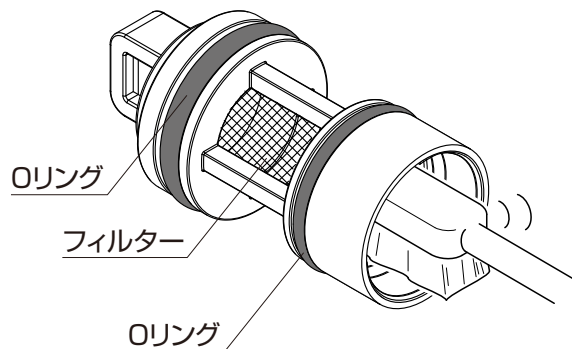


⑦ストレーナーの長穴にマイナスドライバーを差し込み、矢印の方向に動かしてストレーナーを外す。

※ストレーナーを取り外した際に少量の水が出ますので、水を受けるものを用意してください。



⑧フィルター部分に詰まったゴミをナイロンブラシなどで取り除く。



⑨ストレーナーを取り外しと逆の要領で取り付けした後、給水を行い、漏水がないか確認する。(給水方法はP.21『温水器に給水する』参照)

※漏水があった場合は再度取り付け直してください。

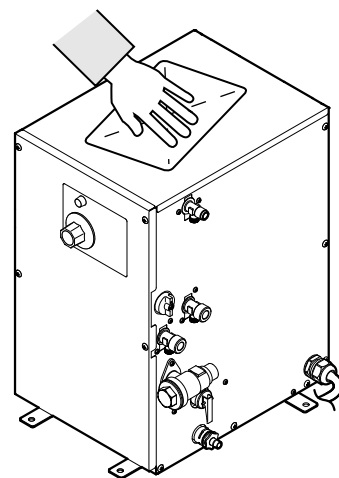


注意

ストレーナーを元に戻すときは、Oリング(ゴム製)が外れたり、はみ出したりしていないことを確認して、ストレーナーキャップのねじをしっかりと締める。
漏水の原因となります。

外装のお手入れ

水に浸して固く絞った布で、汚れがひどいときは適量に薄めた中性洗剤に浸して固く絞った布で拭いてください。
薬品やクレンザーなどは使用しないでください。



こんなときは

故障かな？と思ったら

温水器が正しく運転しない場合や不調な際の修理ご依頼の前にご確認ください。

状況	ご確認ください	対処方法
お湯が沸かない お湯にならない	一次側の漏電ブレーカがOFFになっていませんか？	漏電ブレーカをONにしてください。
	温調ダイヤルがOFFになっていませんか？	温調ダイヤルをONにしてください。
	電源プラグは確実にコンセントに差し込んでありますか？	電源プラグを確実にコンセントに差し込んでください。
	安全装置が作動していませんか？	本器には「空焚き検出」および「過昇温検出」兼用装置が装備されています。復帰するには温水器の運転を停止し、販売店や施工業者様にご依頼ください。リセットの手順はP.35『過昇温防止装置のリセット』参照。
	電圧が誤っていませんか？	100Vの温水器を200Vで使用すると、ヒーターが断線します。
	ヒーターの故障ではありませんか？	販売店や施工業者様に依頼し、ヒーターの導通を測ってください。故障の場合はP.37アフターサービス窓口までご連絡ください。
	停電ではありませんか？	復旧までお待ちください。
湯温が低い または 沸かし上げ時間が長い	設定温度が低くありませんか？	設定温度を希望の温度に設定してください。P.25『設定温度の変更』参照。
	お湯を大量に使用した直後ではありませんか？	瞬間式ではありませんので沸かし上げるまで時間がかかります。沸かし上げるまでお待ちください。P.9『沸かし上げ時間の目安』参照。
	お湯が逃しホースから排水部材へ出続けていませんか？	通電時にポタポタ出るのは正常ですが、常時出ているのは故障です。減圧弁や逃し弁にゴミがかんできたり、逃し弁や減圧弁の故障の可能性もあります。動作確認の手順はP.29『逃し弁の動作確認』参照。正常に動作していない場合はP.37アフターサービス窓口までご連絡ください。
	水温が低くありませんか？	秋から冬にかけては水温が急激に下がるため、沸かし上げ時間が長くなります。P.9『沸かし上げ時間の目安』参照。
湯量が少ない お湯も水も出ない	断水ではありませんか？	給水配管止水栓を閉め、断水が終わるまでお待ちください。
	給水量が不足していませんか？	給水配管止水栓を開いて調整してください。改善しない場合は販売店や施工業者様に依頼し、ストレーナーの清掃を実施してください。(P.30『ストレーナーの清掃』を参照。) 清掃を行っても改善しない場合はP.37アフターサービス窓口までご連絡ください。
	給水配管止水栓が閉まっていますか？	閉まっていたら開けてください。
湯水混合栓の水側を開いたときにお湯が出る(水がぬるい)	お湯が出るのは一時的ですか？	沸かし上げ直後や出水を長期間していない場合など、電気温水器の熱が給水配管に伝わり、出水経路の水が温まる場合がありますが、故障ではありません。そのまま流すことにより水になります。
	常時お湯が出ますか？	P.18「配管接続」を確認し、配管施工に間違いがある場合は施工業者様へご連絡ください。間違いがない場合はご利用を中止し、P.37アフターサービス窓口までご連絡ください。

状況	ご確認ください	対処方法
お湯が臭い お湯が汚れている	設置直後ではありませんか？	設置直後などは工事の際の切削油等が流入することがありますので、水をしばらく出し続けてください。
	長期間の休止後ではないですか？ または 断水直後ではないですか？	休止後は水の汚れや配管内の錆が出る場合があります。湯水混合栓の湯側を開き、水を出し続けてタンク内の水を入れ替えてください。 途中で水の出が悪くなった場合には販売店や施工業者様に依頼し、ストレーナーの清掃を実施してください。(P.30『ストレーナーの清掃』を参照。)
漏水している	本体からですか？	ただちに使用を中止(温調ダイヤルをOFF)し、給水配管止水栓を閉め、電源プラグを抜いた後、P.37アフターサービス窓口までご連絡ください。
	配管接続部からですか？	ただちに使用を中止(温調ダイヤルをOFF)し、給水配管止水栓を閉め、電源プラグを抜いた後、施工業者様に連絡し、各配管をしっかり締め直してください。
温水器本体から音がする	沸かし上げ中ですか？	沸かし上げ中は湯温の上昇に伴って温水器本体から沸かし上げ音がする場合がありますが、故障ではありません。
吐水時に水栓から音がする お湯が白くにごっている	出湯されたお湯に空気を含んでいますか？	沸かし上げの際、水中に溶けていた空気や水蒸気が発生し、給湯時に湯に混入することで白くにごる場合があります。また、音がしたり、お湯の出方が乱れる場合がありますが故障ではありません。
給水時、温水器本体や配管が振動音を発する	配管はしっかり固定されていますか？	給水管に長いフレキ管を使用している場合、しっかり固定されていないと「ウォーターハンマー現象」が起き、振動音が出ることがありますので、施工業者様に連絡し、しっかり固定してください。

その他の不具合について

P.37アフターサービス窓口までご連絡ください。

過昇温防止装置のリセット

販売店や施工業者様のみ

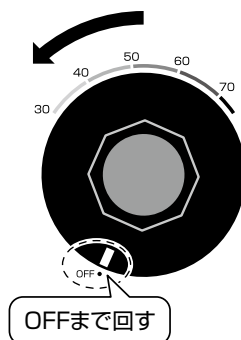
**販売店や施工業者様以外は実行しない。**

感電、やけど、故障やケガの原因となります。

この操作は本器内部を操作しますので販売店もしくはサービス店など、専門の技術者へご依頼ください。

本製品は空焚き運転を検出すると安全装置が作動し、機器の運転を停止します。
空焚き運転をしてしまった場合には下記の手順でリセット操作を行ってください。

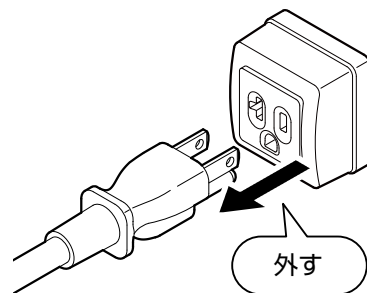
- ① 温調ダイヤルをOFFまで左に回し、運転をOFFにする。



- ② 電源プラグをコンセントから抜く。

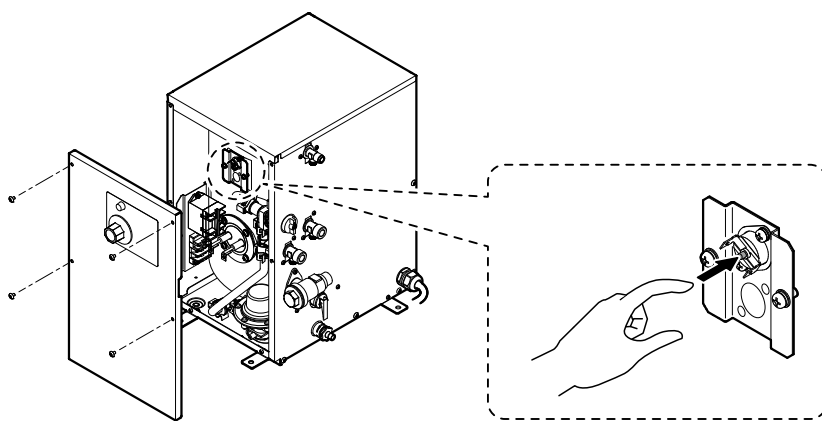
**電源プラグは濡れた手で触らない。**

感電の原因になります。



- ③ 前面パネルを取り外し、下図の過昇温防止装置のリセットスイッチをクリック感があるまで押す。

※クリック感がない場合は、過昇温防止装置は作動していません。

**リセットスイッチ以外に触れない。**

機器内部が高温になっている場合があり、やけどの原因となります。

アフターサービス

消耗品について

下表に記載する部品は定期的に交換が必要な消耗部品です。劣化による動作不良や漏水を防止するため、定期的に交換してください。

部品交換(有償)はP.37アフターサービス窓口までご連絡ください。

部品名		交換時期の目安	交換いただく理由
弁・パッキン	逃し弁	設置、交換日より 3～5年	長期間で使用いただくことにより、経年劣化やスケール*による動作不良や漏水を起こす可能性があります。漏水が起きた場合大きな被害を与えることがありますので、交換することによりそれらを防止します。（※水道水中のミネラル分が固着したもの。）
	減圧弁		
	混合弁		
	電磁弁		
	逆止弁		
	ストレーナー		
	Oリング・パッキン類		
電装部品	ヒーター	設置、交換日より 5～7年	
	過昇温防止スイッチ		
	センサー類		
	ケーブル・コード・配線類		
	その他電装類		
その他	シリコンホース		

※使用頻度、環境、水質によっては交換が早まる場合があります。

補修用性能部品について

本製品の補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後 7 年です。

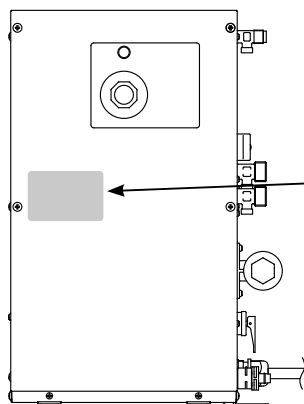
保守契約について

弊社製品を永くお使いいただくためには保守契約が有効です。詳しくは裏表紙に記載の弊社リニューアル課までご連絡ください。また、部品のご注文はP.37アフターサービス窓口にて承っております。

修理をご依頼の際には

修理をご依頼の際には、P.38の故障状況シートの必要事項にご記入いただき、お電話またはインターネット、FAXにてご連絡ください。

(型番や製造番号等は本体貼り付けの保証票に印刷されていますので、故障状況シートへ転記してください。)



保証票		電気温水器
型番		
貯湯量	L	
満水質量	約 kg	
最高使用圧力	0.1MPa	
電源	屋内用	
周波数	50/60Hz	
消費電力		
保証期間	納入後3年間	
製造番号		
株式会社日本イトミック		

アフターサービス窓口

TEL

〈全国共通ナビダイヤル〉



一般電話・公衆電話の場合(市内通話料金でご利用可能です)

0570-011039

ご連絡の際には使用製品の型番・製造番号等の情報をご用意ください。

受付時間:24 時間 365 日(営業時間:8:45 ~ 17:45)

一般電話・公衆電話の場合は市内電話料金でご利用可能、携帯電話からも接続可能です。

【ナビダイヤルに関するご注意】

※ナビダイヤルは通話料のみでご利用できます。※電話窓口が混雑している場合、アナウンスが流れた後、話中の音が流れる場合があります。その場合には、時間をおいて再度おかけ直してください。※PHS、IP電話からはご利用になれません。その場合、以下の窓口にお問い合わせください。

関東地区のお客様：03(3621)2161 関東地区以外のお客様：裏表紙記載の最寄りの営業所にお問い合わせください。

インターネット

〈インターネット修理受付窓口〉

<https://www.itomic.co.jp/repair/>

インターネットのフォームにて修理のご依頼を受け付け致します。入力内容のご確認および訪問日のご調整のため、お申込み頂いた翌営業日に担当者よりご連絡を差し上げます。

FAX

〈FAX 修理受付窓口〉 03 (3621) 2163

FAX で修理のご依頼を受け付け致します。P.38 の故障状況シートに記載の上、最寄りの営業所へお送りください。(裏表紙に記載)

故障状況シート			
お客様名			
ご住所			
T E L		F A X	
製品型番	ESN _____		
設置場所		製造番号	
お取付日 (保証書記載)			
状 態			

設置・ご使用の前に

設置

使用かた

お手入れ

こんなときは

設置・ご使用の前に

設置

使いかた

お手入れ

こんなときは

設置・ご使用前に

設
置

使
い
か
た

お
手
入
れ

こ
ん
な
と
き
は

【無料修理規定】

本規定は、保証票に記載された製品につき、納入から3年の間に故障が発生した場合、下記記載内容に基づいて無料修理を行うことをお約束するものです。保証票に記載された製造番号をご提示のうえ、アフターサービス窓口にご依頼ください。

1. 取扱説明書・製品本体貼付ラベルなどの注意書に従った正常な使用状態で、保証期間内に故障が発生した場合には無料修理いたします。
2. 保証期間内に故障して無料修理を受ける場合は、アフターサービス窓口にご依頼の上、修理に際して保証票に記載された製造番号をご提示ください。なお、遠隔地（離島および離島に準ずる遠隔地）への出張修理を行った場合には、出張に要する実費を申し受けます。
3. ご転居の場合は、事前にアフターサービス窓口にご相談ください。
4. 補償範囲は機能部とその付属品のみで、配管類は含みません。
5. 保証期間内でも次の場合は保証の対象とならず、有料修理となります。
 - （1）お客様が取扱説明書・本体貼付ラベル等に記載された手順・注意を守らなかったことによる不具合や、部品・タンク内の清掃など日常のお手入れを行わなかったことによる不具合※1
 - （2）Oリング・パッキン類の摩耗・劣化による不具合や、電池の消耗による不具合
 - （3）工事要領に指示する方法に基づかない施工や工事設計による不具合※2
 - （4）輸送・搬入・移動の際の落下・転倒・接触等による不具合
 - （5）専門業者以外による移動・分解・修理・改造などによる不具合
 - （6）指定規格以外の電気（電圧・周波数など）の使用や電力契約の間違いによる不具合
 - （7）温泉水・井戸水など水道水以外の水を給水したことによる不具合
 - （8）設備側の排水不良等による冠水により生じた不具合
 - （9）電気・給水の供給トラブル等による不具合
 - （10）配管の錆・砂・ゴミ等異物の流入による不具合
 - （11）建築躯体の変化などに起因する不具合や、塗装の色あせなどの経年変化またはご使用に伴う摩耗等による外観上の不具合
 - （12）火災・爆発等の事故、地震・津波・噴火・風水害・雷などの天災や地変、煤煙、降灰、酸性雨、凍結、海岸付近や温泉地等の地域における腐食性の空気環境、ほこり、異常電圧、異常電磁波、ねずみ・鳥・昆虫などの動物の行為、または戦争・暴動など破壊行為による不具合
 - （13）保証票の提示が無い場合
6. 無料修理により交換された部品や製品は（株）日本イトミックの所有となります。
7. 製品の保証は日本国内におけるご使用の場合のみ有効です。

※1：日常のお手入れとはお客様で自身で行えるもののほかに、設備業者や管理技術者に依頼が必要なものがございます。製品や部品によってお手入れ方法や時期が大きく異なりますので、取扱説明書やラベル等を必ずご確認くださいとともに、不明点はアフターサービス窓口にご相談ください。

※2：製品によって施工方法や注意事項が大きく異なりますので、施工時には工事要領を必ずご確認くださいとともに、不明点はアフターサービス窓口にご相談ください。

■お客様へ

1. 製品をお受け取りになる際は、製造番号が記載されている保証票が貼り付けられていることを確認してください。
2. 保証票の再発行はいたしません。
3. 機器が正しく運転しない場合や不調な場合は、修理ご依頼の前に「こんなときは」の項をご覧ください。
4. 無料修理期間経過後の故障・修理等につきましては、「アフターサービス」の項をご覧ください。アフターサービス窓口までお問い合わせください。
5. 保証票によって、保証票を発行している者（保証責任者）およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

株式会社 日本イトミック

本社・営業本部 TEL : 03 (3621) 2121 (代)
FAX : 03 (3621) 2130
〒131-0045 東京都墨田区押上 1-1-2 (東京スカイツリーイーストタワー 24F)
ホームページ <https://www.itomic.co.jp/>

《修理に関するお問い合わせ》

ご連絡の際には使用製品の型番・製造番号等の情報をご用意ください。

一般電話・公衆電話の場合(市内通話料金でご利用可能です)



0570-011039

【ナビダイヤルに関するご注意】

- ※ナビダイヤルは通話料のみでご利用できます。
- ※電話窓口が混雑している場合、アナウンスが流れた後、話中の音が流れる場合があります。その場合には、時間をおいて再度おかけ直してください。
- ※PHS、IP電話からはご利用になれません。その場合には関東地区のお客様は以下の窓口、その他の地域のお客様は最寄りの営業所まで直接お電話ください。

関東地区お問い合わせ TEL : 03 (3621) 2161
FAX : 03 (3621) 2163

《保守契約に関するご相談》

弊社製品を永くお使いいただくためには保守契約が有効です。詳しくは下記の弊社リニューアル課までご連絡ください。

また、部品のご注文はアフターサービス窓口で承っています。

リニューアル課 TEL : 03 (3621) 2760
FAX : 03 (3621) 2160

《担当エリアと営業所》

北海道地区 TEL : 011 (615) 6681
北海道営業所 FAX : 011 (615) 7004
〒063-0801 北海道札幌市西区二十四軒 1 条 5-1-10 (ラポール 24 軒 2 号館)
担当エリア：北海道地区全域

東北地区 TEL : 022 (357) 0848
東北営業所 FAX : 022 (357) 0847
〒983-0014 宮城県仙台市宮城野区高砂 2-8-21
担当エリア：青森県／岩手県／秋田県／山形県／宮城県／福島県

関東・新潟・山梨・静岡地区 TEL : 03 (3621) 2121
(株)日本イトミック 本社 FAX : 03 (3621) 2130
〒131-0045 東京都墨田区押上 1-1-2 (東京スカイツリーイーストタワー 24F)
担当エリア：東京都／千葉県／埼玉県／茨城県／栃木県／群馬県／神奈川県／山梨県／新潟県／静岡県

中部・北陸地区 TEL : 052 (222) 2561
中部営業所 FAX : 052 (222) 2559
〒460-0002 愛知県名古屋市中区丸の内 1-4-12 (アレックスビル 3F)
担当エリア：富山県／石川県／福井県／岐阜県／愛知県／三重県／長野県

近畿地区 TEL : 06 (7177) 4949
関西営業所 FAX : 06 (7177) 4948
〒541-0056 大阪府大阪市中央区久太郎町 3-1-11 VORT 御堂筋本町Ⅱ 7F
担当エリア：大阪府／京都府／滋賀県／和歌山県／奈良県／兵庫県

中国・四国地区 TEL : 082 (240) 1361
中国営業所 FAX : 082 (240) 1363
〒730-0051 広島県広島市中区大手町 2-3-9 (大手町中村ビル 2F)
担当エリア：鳥取県／島根県／岡山県／広島県／山口県／香川県／徳島県／愛媛県／高知県

九州・沖縄地区 TEL : 092 (481) 3911
九州営業所 FAX : 092 (481) 3930
〒812-0007 福岡県福岡市博多区東比恵 3-28-5
担当エリア：福岡県／佐賀県／長崎県／大分県／熊本県／宮崎県／鹿児島県／沖縄県

※本書に記載の内容は、製品の改良や仕様の変更などにより予告なく変更する場合がありますのでご了承ください。